

令和 7 年 度

業 務 年 報

令和 8 年 3 月

鳥取県園芸試験場

目 次

I	試験研究課題一覧	3
II	試験研究成果	18
III	研究業績一覧	56
IV	総務報告	59
V	令和7年半旬別気象表	64

I 試 験 研 究 課 題 一 覧

研究課題名	掲載 ページ	予算 区分	研究期間	分類
《果 樹 関 係》				
1. 病害虫発生予察調査事業 (1) 果樹主要病害虫の発生予察調査		国補	S26～	環境研究室
2. 新農薬適用試験 (1) 果樹主要病害虫に対する新農薬の実用化試験		受託	H10～	環境研究室
3. 園芸産地の今と未来を見据えた病害虫の防除対策 (1) ナシ黒星病多発園における防除対策 ア 開花前における各種殺菌剤のナシ黒星病に対する予 防効果 イ 有機銅水和剤の葉における残効（自然感染条件下） ウ 有機銅水和剤の果実における防除効果および残効（接 種条件下） エ 分生子が付着した指先との接触による伝染の可能性 (2) ナシ炭疽病多発園における防除対策 ア キャプタンを有効成分とする薬剤を用いた体系の防 除効果 (3) みどりの食料システム戦略に係る農薬低減技術の確立 ア 成分数およびリスク値の異なる薬剤の防除効果 イ 自動草刈りロボットを用いた落葉破碎によるナシ黒 星病の孢子飛散抑制 (4) ナシ果実における薬斑汚れの軽減対策 ア 薬剤による汚れ程度の比較 (5) カメムシ類の防除対策 ア 多発年における果樹カメムシ類の予察方法の検討 イ スマート害虫モニタリングシステムを活用した予察 精度の検証 ウ チャバネアオカメムシに対する薬剤の防除効果 エ チュウゴクアミガサハゴロモの薬剤感受性検定（予備 試験）		単県	R5～R9	環境研究室

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>(6) ダニ類の防除対策</p> <p>ア ナシハダニ類の薬剤感受性検定（室内試験）</p> <p>（ア）琴浦系カンザワハダニ</p> <p>（イ）八頭系ナミハダニ</p> <p>イ ナシにおけるアシノナピル水和剤と有機銅剤の散布間隔</p> <p>ウ カキにおけるフルアジナム水和剤散布が及ぼす影響</p> <p>エ 鳥取県のブドウ園におけるダニ類の発生種および発生時期</p> <p>(7) チョウ目害虫の防除対策</p> <p>ア ナシにおけるクワゴマダラヒトリの防除対策（室内試験）</p> <p>イ ハスモンヨトウの薬剤感受性検定（室内試験）</p> <p>(8) コウチュウ目害虫の防除対策</p> <p>ア キクイムシ類に対する防除対策</p> <p>4. 鳥取県オリジナル品種等の多収安定生産技術の確立</p> <p>(1) ‘新甘泉’の収穫適期の拡大</p> <p>ア 袋の種類の違いが‘新甘泉’の収穫時期に及ぼす影響</p> <p>イ エテホン液剤の散布</p> <p>（ア）場内試験</p> <p>（イ）現地試験</p> <p>（ウ）ジベレリン塗布</p> <p>（エ）エテホン液剤の散布時期の検討</p> <p>(2) ‘秋甘泉’の裂皮軽減対策の検討</p> <p>ア BS資材（グリーンステム）の散布が‘秋甘泉’の裂皮に及ぼす影響</p> <p>(3) ‘鳥園L’の高品質果実生産技術の確立</p> <p>ア 袋の種類による検討</p> <p>イ 黒星病感受性検定</p>		単県	R6～R10	果樹研究室
<p>5. ナシ栽培の革新的な省力化技術の確立</p> <p>(1) ジョイント栽培の高品質・安定多収栽培技術の確立</p> <p>ア ‘新甘泉’のジョイント栽培における超早期多収栽培</p>		単県	R6～R10	果樹研究室

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>技術の開発</p> <p>イ ‘新甘泉’の腋花芽の利用が収量・果実品質に及ぼす影響（着果3年目）</p> <p>ウ 夜間のFR照射による補光が‘おさゴールド’苗木の伸長に及ぼす影響</p> <p>エ ヒオモン水溶剤による‘新甘泉’の新梢伸長抑制効果の検討</p> <p>オ ‘おさゴールド’JV仕立てにおける主枝高及び側枝仰角の違いが樹体生育に及ぼす影響</p> <p>カ ‘おさゴールド’ジョイント仕立て樹における新梢管理方法の違いが果実品質に及ぼす影響</p> <p>キ 二十世紀系品種の袋かけ省略化に向けた果面保護剤の検討</p> <p>ク ジョイントV字トレリスの生産性の検討 （ア）‘甘太’および‘王秋’（短果枝花芽の維持が容易な品種）の検討 （イ）‘新甘泉’（短果枝花芽の維持が困難な品種）の検討</p> <p>ケ ‘王秋’ジョイント仕立て樹の効率的な土壌改良方法の検討</p> <p>コ 株元への除草剤散布がナシの1年生苗木の生育に及ぼす影響</p> <p>サ 植付け1年目の‘新甘泉’苗木株元へのポリエチレンフィルム被覆が初期生育に及ぼす影響</p> <p>シ 腹接ぎの穂木固定用資材の検討</p>				
<p>6. 気候変動に負けない高品質果実生産技術の確立</p> <p>(1) 温暖化の影響評価と対応技術の開発</p> <p>ア ‘新甘泉’の日焼け果軽減対策 （ア）着果位置が日焼け果の発生に及ぼす影響 （イ）遮光性の高い果実袋が日焼け果発生に及ぼす影響 （ウ）サンテ®白の使用可能回数の検討（使用回数4回目）</p> <p>イ 前年の高温が翌年の‘新甘泉’における変形硬化発生に及ぼす影響</p> <p>ウ 中間台品種の違いが‘夏さやか’の枝幹病害の発生に</p>		単県	R6~R10	果樹研究室

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>及ぼす影響</p> <p>エ ‘王秋’のコルク状果肉障害軽減対策 (ア) 高温期の樹上散水が‘王秋’のコルク状果肉障害の発生に及ぼす影響 (イ) 袋の種類が‘王秋’のコルク状果肉障害の発生及び果実品質に及ぼす影響 (ウ) 受粉樹‘ネパールみのるB’の花粉が‘王秋’のコルク状果肉障害の発生に及ぼす影響 (エ) 寒冷紗による遮光が‘王秋’のコルク状果肉障害の発生に及ぼす影響</p> <p>オ 元肥および夏肥の有無が果実品質および樹体生育に及ぼす影響(19年目)</p> <p>カ 化学肥料2割低減試験(2年目)</p> <p>キ 鶏糞の施用が‘新甘泉’の果実品質に及ぼす影響(1年目)</p> <p>ク ‘輝太郎’の日焼け果実発生状況調査</p> <p>ケ ‘輝太郎’の日焼け果軽減対策の検討(予備試験)</p> <p>コ サビケアMの検討(予備試験)</p> <p>サ 鳥取県におけるカンキツ類栽培試験 (ア) 極早生、早生ウンシュウミカンの栽培適性の検討 (イ) シールディング・マルチ栽培の検討</p> <p>(2) 果樹の生態調査</p> <p>ア 花粉用品種の開花期および花芽着生量に関する調査</p> <p>イ ナシの新梢発育に関する調査</p> <p>ウ ナシの花芽生育調査</p> <p>エ ナシの防除適期の予測</p> <p>オ ナシの収穫適期の予測</p> <p>カ 作況調査</p> <p>キ カキ品種特性調査</p> <p>ク カキ園土壌のアレロパシー活性の実態把握</p> <p>ケ ‘輝太郎’の果実肥大および着色と気象条件との関係性の解析</p>				
7. 「輝太郎」を核としたカキ産地力強化に向けた栽培技術		単県	R6～R10	果樹研究室

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>の確立</p> <p>(1) ‘輝太郎’ 早期成園化・早期収量確保技術の確立</p> <p>ア ジョイントV字トレリス仕立てが‘輝太郎’の早期成園化・省力化に及ぼす影響</p> <p>イ ポット育苗2年生大苗が‘輝太郎’の早期樹冠拡大に及ぼす影響</p> <p>ウ 土壌保水材処理が‘輝太郎’苗木の生育に及ぼす影響</p> <p>エ 接ぎ木時に使用するポリエチレンフィルムの食い込みが‘輝太郎’の生育に及ぼす影響</p> <p>(2) ‘輝太郎’ 果実品質向上のための技術開発</p> <p>ア ‘輝太郎’の熟期促進の検討</p> <p>(ア) 樹上散水による‘輝太郎’の熟期促進の検討</p> <p>(イ) エチクロゼートとエテホンの併用処理及び環状剥皮処理が‘輝太郎’の熟期促進に及ぼす影響(予備試験)</p> <p>(ウ) BS資材(ヒートインパクト)が‘輝太郎’の果実品質に及ぼす影響(予備試験)</p> <p>イ 果実袋による‘輝太郎’の外観品質向上の検討</p> <p>(ア) 果実袋の被覆が‘輝太郎’の着色に及ぼす影響(裂皮果を除く)</p> <p>(イ) 果実袋の被覆が‘輝太郎’の着色に及ぼす影響(累計収穫)</p> <p>(ウ) 環状剥皮による着色促進</p> <p>(エ) 除袋による果実品質の検討</p> <p>(オ) 果実の大きさが果実袋被覆時にみられる汚損発生に及ぼす影響</p> <p>(カ) 果実袋の検討</p> <p>ウ ‘輝太郎’の裂皮軽減対策の検討</p> <p>(ア) 降雨が裂皮に及ぼす影響(予備試験)</p> <p>(イ) グリーンステムの検討</p> <p>エ 天然型アブシジン酸含有肥料による‘輝太郎’着色促進の検討</p> <p>(3) 既存品種の生産安定</p> <p>ア ‘花御所’のへたすき果軽減対策試験(現地ほ場)</p> <p>(ア) 着果管理の早晚が‘花御所’の果実品質に及ぼす影響</p>				

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
10. 系統適応性検定試験 (1) 特性調査 ア ナシ イ カキ ウ ブドウ 《野菜・花き・特産関係》		単県		果樹研究室 砂丘農研セ
11. 病害虫発生予察調査事業 (1) 野菜主要病害虫の発生予察調査 (2) 病害虫発生状況と防除対策の情報提供 (3) 病害虫の診断依頼		国補	S26～	環境研究室
12. 新農薬適用試験 (1) 野菜主要病害虫に対する新農薬の実用化試験		受託	H10～	環境研究室
13. 園芸産地の今と未来を見据えた病害虫防除対策 (1) ブロッコリーの病害虫防除対策 ア ブロッコリーの病害虫対策 (ア) ブロッコリー根こぶ病に対する耐病性の品種間差の確認 (イ) ブロッコリー黒すす病に対する防除効果の検討 (ウ) ブロッコリー黒すす病に対する防除効果の検討（花蕾の防除方法の検討） (エ) ブロッコリー黒すす病の接種圧の検討 (オ) ブロッコリー黒すす病に対する薬剤抵抗性検定 イ ドローンを活用した防除方法の検討 (ア) ドローンを活用した防除方法の検討（秋冬：チョウ目、黒すす病） (2) ナガイモ腐敗症状への対策 ア ナガイモの病害虫対策 (ア) ダゾメット粒剤冬季無被覆処理および定植時粒剤処理による褐変症発生への影響（3年目）		単県	R5～R9	環境研究室

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<ul style="list-style-type: none"> (イ) 処理時期の異なるダゾメット剤無被覆処理による芋品質への影響（2年目） (ウ) ナガイモのコガネムシ類に対する薬剤の防除効果の検討 (3) ネギ病害虫防除対策 <ul style="list-style-type: none"> ア ネギの病害虫対策 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 萎凋病に対する定植前処理による防除効果（新農薬実用化試験を含む） (イ) シロイチモジヨトウに対する感受性検定 (ウ) ネギアザミウマに対する感受性検定 イ ネギ“葉トロケ症”の原因究明と対策検討 <ul style="list-style-type: none"> (ア) “葉トロケ症”より分離した原因菌の同定（令和7年度採取分） (イ) “葉トロケ症”の防除対策検討（ほ場試験） (4) スイカ病害虫防除体系の確立 <ul style="list-style-type: none"> ア スイカの病害虫対策 <ul style="list-style-type: none"> (ア) トンネル作型でのスイカ作付け後処理における急性萎凋症状への影響 (イ) スイカ異常果の原因究明 (5) 突発的に発生する野菜病害虫への対応及び新防除技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> ア スイカ出荷後の腐敗対策に向けた病原性確認方法の検討 				
<p>14. 鳥取の野菜主要品目における革新技術による生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 鳥取スイカの生産拡大を目指す次世代栽培技術 <ul style="list-style-type: none"> ア ハウス・トンネルの生産安定技術 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 作型別の穂木品種の選定 <ul style="list-style-type: none"> a ハウス作型 b 7月どりトンネル作型 (イ) ‘倉皇サマー（U-027）’の栽培方法の検討 (ウ) スイカのうどんこ病・炭疽病耐病性系統の特性調査（健全圃場） イ 高温期のスイカにおける高品質生産 		単県	R6～R10	野菜研究室

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>(ア) 遮光技術の検討</p> <p> a ハウス作型</p> <p> b 7月どりトンネル作型</p> <p>(2) 黒ボク地域における露地野菜の生産拡大</p> <p> ア ブロッコリーの高品質多収技術</p> <p> (ア) 作型別適品種の選定</p> <p> a 6月どり作型</p> <p> b 2月どり作型(令和6年定植)</p> <p> イ 白ネギの生産安定</p> <p> (ア) 10月どり作型における灌水効果の検討</p> <p> (イ) 10月どり作型における遅植えと灌水効果の検討</p> <p>(3) 施設利用野菜の高品質多収技術</p> <p> ア ミニトマトにおける夏季異常高温に対応した栽培技術</p> <p> (ア) 遮熱資材レディヒートがミニトマトの生育、収量に及ぼす影響</p> <p> (イ) レディヒート処理条件下での最適な土壌pF管理の検討</p> <p> (ウ) 遮熱被覆資材「青天張」がミニトマトの生育、収量に及ぼす影響</p> <p> (エ) 有望品種の検索</p> <p>(4) 鳥取県開発イチゴ品種の高品質多収技術</p> <p> ア 新品種「堅しろう」の栽培技術</p> <p> (ア) イチゴ苗の剪葉処理が生育、収量に及ぼす影響</p> <p> (イ) 電照による草勢及び収量性への影響</p> <p> (ウ) クラウン加温による草勢及び収量性への影響</p> <p> (エ) 受粉方法の違いが着果率および可販収量に及ぼす影響</p> <p>(5) みどりの食料システム戦略に対応した栽培技術</p> <p> ア 生分解性不織布ポットの利用</p> <p> (ア) スイカ</p> <p> a スイカ栽培における生分解性不織布ポットの利用(トンネル作)</p> <p> (イ) イチゴ</p>				

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<ul style="list-style-type: none"> a イチゴ栽培における生分解性不織布ポット育苗の実証 (ウ) メロン a 抑制メロン栽培における生分解性不織布ポットの利用 イ 鶏ふんを利用した化学肥料の削減 (ア) 白ネギ栽培における鶏ふん利用の検討(12月どり作型) <p>15. 気候・風土に適応した砂丘ラッキョウ・ナガイモの安定生産技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ラッキョウにおける安定生産技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ア 高収量を得られる施肥技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 秋季重点施肥による収量の検討 (イ) 施肥時期による収量性への影響の検討(予備試験) イ 春肥施用が灰色カビ病・あめ色症状の発生に及ぼす影響 ウ 作業省力化に向けた除草体系の検討 (2) ‘ねばりっ娘’専用栽培技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ア 縦割れ症発生原因究明と低減技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> (ア) pH低下処理が縦割れ症に及ぼす影響(現地試験) (イ) ホウ素配合資材の施用効果(現地試験) イ 夏季の高温対策技術の検討 ウ ‘ねばりっ娘’専用栽培指針の作成 <ul style="list-style-type: none"> (ア) ‘ねばりっ娘’の生育特性調査 (イ) 堆肥による収量への影響 (ウ) ‘ねばりっ娘’の土壌適応性調査(予備試験) (エ) 種芋の大きさについて エ 基肥削減の影響 (3) ナガイモ黒陥没症対策技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ア 発生原因の究明と低減技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> (ア) pH調整ほ場の経過観察試験(現地試験) (イ) 粒剤散布量の検討(現地試験) (4) ‘鳥取 1u61’の安定生産技術の確立 		単県	R6~R10	砂丘農研セ

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>ア 出芽率向上を目指した早植えの検討（予備試験）</p> <p>(5) 環境に配慮した施肥法の開発</p> <p>ア ラッキョウにおけるリン酸施用の削減</p> <p>16. 地球温暖化に対応した白ネギ安定生産技術と弓浜特産野菜の栽培改善</p> <p>(1) ネギ軟腐病・萎凋病の発生を軽減する栽培技術の確立</p> <p>ア ほ場整地による畝間滞水解消とネギ生育</p> <p>(ア) 弓浜湿地におけるネギ湿害の実態調査まとめ</p> <p>イ 乾燥畑での夏期適湿管理によるネギの安定生産技術</p> <p>(ア) 10月どり短縮栽培における適湿管理の効果</p> <p>(イ) 10月どり短縮栽培における適品種の選定</p> <p>ウ 高温期の肥培管理技術</p> <p>(ア) 9月どりでの土壌改良資材の併用効果</p> <p>エ ネギ軟腐病・萎凋病防除技術の確立</p> <p>(ア) 品種およびネギ含水率の違いが葉トロケ症に及ぼす影響</p> <p>(イ) ダゾメット微粒剤の増量処理（8月どり）</p> <p>(ウ) ダゾメット微粒剤の増量処理（9月どり）</p> <p>(エ) ダゾメット微粒剤処理後のバチルス属菌資材施用</p> <p>(オ) 定植時期の変更による秋冬作型安定生産技術の探索</p> <p>(2) 白ネギ周年栽培体系の強化</p> <p>ア 作型別適品種の選定</p> <p>(ア) 6月どり（トンネル）</p> <p>(イ) 6月どり（無トンネル）</p> <p>イ 生産者ができる春ネギ抽台予測手法の開発</p> <p>ウ 各種病害虫等に対する薬剤防除体系</p> <p>(ア) 除草剤ロロックス水和剤の処理とネギ薬害</p> <p>(イ) 除草剤ロロックス水和剤の薬害と畝表面に露出した根の関係</p> <p>(ウ) ネギハモグリバエに対する殺虫剤（粒剤）の効果</p> <p>エ 緑肥・輪作作物を組み込んだ土壌環境の改善</p> <p>(ア) イモ類輪作後の白ネギ生育収量まとめ</p> <p>(3) 弓浜特産野菜の栽培改善</p>		単県	R5～R9	弓浜分場

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>ア ニンジン優良品種選定と栽培技術の検討 (ア) 秋冬どり (8月中旬播種) (イ) 越年どり (9月上旬播種)</p> <p>イ カンショ ‘べにはるか’ の栽培技術と早期出荷用良食味品種の検索 (ア) 良食味品種の検索 (早掘り) (イ) 良食味品種の検索 (普通掘り) (ウ) コガネムシ薬剤防除試験</p> <p>17. 中山間地園芸作物の安定栽培技術の確立 (1) 夏秋トマトの高品質安定多収技術の確立 ア ‘りんか409’ の高品質安定多収技術の確立 (ア) 遮熱塗布剤と仕立て方法が収量品質へ及ぼす影響 (イ) 施肥コスト削減 (ウ) 温暖化に対応した作期拡大の検討 イ 耐裂果性品種の特性調査 (ア) pH指標のかん水が収量へ与える影響 (イ) ‘麗月’ の誘引方法の影響 (ウ) ‘麗月’ の増肥の影響 (エ) バイオスティミュラント資材の効果確認 (2) 中山間地における白ネギの安定・多収栽培技術の確立 ア 7月どり作型に適した栽培方法の検討 (ア) 植え溝の深さと被覆資材の有無が生育に及ぼす影響 イ 作型別適品種の選定 (ア) 8月どり (イ) 9月どり (ウ) 10月どり ウ 高品質多収技術の検討 (ア) 盛夏期の頭上散水が生育に及ぼす影響 (イ) 鶏ふん利用による化成肥料の使用量低減 (ウ) 竹チップ堆肥の利用が生育に及ぼす影響 (予備試験) (3) ブロccoliリーの安定栽培技術の確立 ア 作型別適品種の選定 (ア) 6月どり</p>		単県	R6～R10	日南試験地

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>(イ) 夏秋どり</p> <p>(4) 夏秋ピーマンの高品質安定多収栽培技術の確立</p> <p>ア ピーマン斑点病に対する防除体系の検討</p> <p>イ 施肥コスト削減</p> <p>(5) 新規品目の栽培技術確立</p> <p>ア 中山間地における露地花き品目の栽培適性</p> <p>(ア) ‘鳥鱗1号’の繁殖方法別の生育(前年収穫後の母球定植)</p> <p>(イ) ‘鳥鱗1号’の繁殖方法別の生育(鱗片挿し)</p> <p>18. 鳥取の花き主要品目における安定・高品質生産技術の確立</p> <p>(1) 切り花(ストック)</p> <p>ア 生育促進効果が高いEOD照射と品質向上法の検討</p> <p>(ア) 効果の高い花芽分化および開花促進手法の検討</p> <p>(イ) 早生系品種の分化促進手法の検討</p> <p>(ウ) PCa処理と高温が奇形花発生に及ぼす影響</p> <p>(エ) オールダブル試験品種の検討</p> <p>(オ) 新しい試験品種の検討</p> <p>イ 遮光とFR照射による開花調節</p> <p>(ア) 遮光による開花調節(スタンダード品種)</p> <p>(イ) 遮光による開花調節(スプレー品種)(令和6年度)</p> <p>(ウ) 遮光による開花調節(スプレー品種)(令和7年度)</p> <p>ウ 安定出荷につながる開花予測と品質保持技術の開発</p> <p>(ア) スtock D2出荷における効果的な前処理剤の検討</p> <p>(2) 切り花(シンテッポウユリ)</p> <p>ア 露地作型の高品質化と長期出荷体系の確立</p> <p>(ア) 化学肥料施肥量の削減</p> <p>(イ) 省力的な雑草対策技術の確立</p> <p>(ウ) チェーンポット栽培に適した品種の選定</p> <p>(エ) 出荷時期調整のための冷蔵保存試験</p> <p>イ 秋冬出荷作型の採花率向上と高品質化</p>		単県	R6~R10	花き研究室

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>(ア) 直播き栽培の検討 (イ) シンテッポウユリの減肥栽培 (ウ) 秋冬出荷作型に適した品種の検討 (エ) 試験場育種系統の現地適応性 (オ) 育苗期後半の高温が抽台に及ぼす影響の解明 (カ) 定植前苗冷蔵時間と定植時期が生育に及ぼす影響の検討</p> <p>(3) 切り花（アスター） ア 秋出荷マイクロアスターの品質向上と開花期調節に効果的な光照射法の検討 (ア) アスターにおけるチェーンポット栽培の実証 (イ) アスターにおけるBS資材の利用検討 (ウ) アスターコーティング種子の検討 イ 大輪系アスターの栽培方法検討 (ア) 大輪系アスターの品質向上手法の検討</p> <p>(4) 切り花（ハボタン） ア 高品質な切り花ハボタン栽培の確立 (ア) 栽植密度の検討 (イ) 直播栽培の検討</p> <p>(5) 花壇苗 ア EOD光照射+EOD加（保温）+わい化剤を組み合わせた早春出荷法の確立 イ 高温期における安定・高品質生産技術の確立 (ア) サルビアにおけるハウス降温管理の検討 (イ) サルビアにおける苗サイズの検討 (ウ) パンジーにおけるハウス降温管理の検討 (エ) パンジーにおけるセルトレイ苗冷蔵処理の検討</p> <p>(6) シバ ア 生理障害抑制法の確立 (ア) 土壌改良剤による地下部生育促進の検討</p> <p>19. 環境に配慮した持続可能な農業拡大推進事業 (1) 化学農薬・肥料の使用削減、廃プラスチックの排出量削減</p>				

研究課題名	掲載ページ	予算区分	研究期間	分類
<p>ア 花壇苗における生分解性ポットの利用方法の検討 (ア) 低温期における生分解性ポットの利用方法の検討</p> <p>20. 花ふれ愛事業 (1) ミニフラワーガーデン設置事業 ア 県中部施設への花壇苗配布</p> <p>21. 市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸新品種の育成 (1) スイカ耐病性優良台木の育成と実用化 ア スイカつる割病耐病性系統の選抜及び形質固定 イ 黒点根腐病耐病性検定 (2) イチゴ新品種の育成と実用化 ア 有望系統の3, 5次選抜 (3) ユリ新品種の開発 ア 秋冬出荷栽培に適したシンテッポウユリの開発 (ア) 選抜系統の形質の改良 (4) アジサイ新品種の開発 ア 八重咲き新品種の育成</p> <p>《農林水産試験場臨時的調査研究事業》</p> <p>22. 臨時的調査研究 (1) 有機銅水和剤のナシ果実における防除効果および残効 (自然感染条件下) (2) 樹齢、結果母枝の由来および栄養状態が‘花御所’の 雌花着生に及ぼす影響 (3) 出荷後のスイカ果実腐敗対策に向けた病原性確認方法 の検討</p>		<p>単県</p> <p>単県</p>	<p></p> <p>R7</p>	<p>花き研究室 野菜研究室</p> <p>果樹研究室 環境研究室</p>

Ⅱ 試験研究成果

《果樹関係》

1. 病害虫発生予察調査事業

(1) 果樹主要病害虫の発生予察調査

担当者：山田高之・皆川雄哉・森本隆義・北山淑一

協力分担：病害虫防除所

ナシ、カキ、ブドウなど果樹病害虫の発生状況を調査し、発生予察情報を提供した。これらの主な内容は病害虫防除所ホームページに公開した。

(<https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/>)。

〈本試験成績掲載印刷物：15〉

2. 新農薬適用試験

(1) 果樹主要病害虫に対する新農薬の実用化試験

担当者：山田高之・皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

殺菌剤ではナシ黒斑病の防除薬剤1種類、殺虫剤では、ナシのシンクイムシ類、ハマキムシ類の防除薬剤1種類について実用性を評価した。

〈本試験成績掲載印刷物：7〉

3. 園芸産地の今と未来を見据えた病害虫の防除対策

(1) ナシ黒星病多発園における防除対策

ア 開花前における各種殺菌剤のナシ黒星病に対する予防効果

担当者：山田高之・北山淑一

協力分担：なし

生育初期のナシ黒星病防除に利用すべき最適な薬剤を明らかにすることを目的に、開花前のステージにおいて主要殺菌剤を散布した後に接種を行い、その後の発生量を調査した。その結果、少発生条件下において全ての供試薬剤は防除効果が期待できる可能性があった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ 有機銅水和剤の葉における残効（自然感染条件下）

担当者：山田高之・北山淑一

協力分担：なし

自然感染条件下で、ナシ黒星病に対する有機銅水和剤の葉における残効を明らかにすることを目的に、同一期間内で散布間隔を変えて複数回散布を行い、その後の発生量を調査した。その結果、防除効果は約10日後まで認められ、約15日後においてはやや低下した。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ウ 有機銅水和剤の果実における防除効果および残効（接種条件下）

担当者：山田高之・北山淑一

協力分担：なし

接種条件下で、ナシ黒星病に対する有機銅水和剤の果実における防除効果および残効を明らかにすることを目的に、接種までの期間を変えて散布を行い、その後の発生量を調査した。その結果、接種による発生量が少なく、防除効果の評価が困難であった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

エ 分生子が付着した指先との接触による伝染の可能性

担当者：山田高之・北山淑一

協力分担：なし

ナシ黒星病の病斑に触れた指先による伝染有無を明らかにすることを目的に、分生子が付着した指先およびそれを拭き取った指先で健全果に触れ、その後の発生量を調査した。その結果、摘果作業時における発病果との接触で本病が伝染する可能性が示唆され、指先を拭き取ることでその感染は大きく減少すると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(2) ナシ炭疽病多発園における防除対策

ア キャプタンを有効成分とする薬剤を用いた体系の防除効果

担当者：山田高之・北山淑一

協力分担：なし

キャプタン水和剤およびキャプタン・ペンチオピラド水和剤の慣行防除体系下における追加防除の有効性を明らかにすることを目的に、2回散布の試験を行った。複数年に渡る試験の結果、両剤とも防除効果が認められるが、後者で防除効果が優れた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(3) みどりの食料システム戦略に係る農業低減技術の確立

ア 成分数およびリスク値の異なる薬剤の防除効果

担当者：山田高之・北山淑一

協力分担：なし

ナシ黒斑病とナシ黒星病の防除に利用する殺菌剤の成分数およびリスク値の削減を目指し、現行の防除暦採用剤に代替できる可能性がある薬剤の防除効果を3年間検討した。その結果、一部の薬剤で代替の可能性が示された。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ 自動草刈りロボットを用いた落葉破碎による黒星病の孢子飛散抑制

担当者：山田高之・北山淑一

協力分担：なし

落葉処分を省力化する手法を確立することを目的に、ナシ黒星病に対するロボット草刈機による落葉破碎の効果を検討した。その結果、子嚢孢子の飛散抑制効果は判然としなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(4) ナシ果実における薬斑汚れの軽減対策

ア 薬剤による汚れ程度の比較

担当者：山田高之・古井佑樹・北山淑一

協力分担：なし

露地ほ場において、各種薬剤の果実における薬斑汚れ程度を明らかにすることを目的として、薬剤毎に散布翌日の汚れ程度を評価した。その結果、殺菌剤・殺虫剤・殺ダニ剤の計18剤の汚れ程度が明らかになった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(5) カメムシ類の防除対策

ア 多発年における果樹カメムシ類の予察方法の検討

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

果樹カメムシ類が多発した条件下において、誘引頭数の計測を簡便化することを目的として、抽出法による果樹カメムシ類の頭数予測精度を検討した。その結果、1/2抽出法の活用が可能であると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ スマート害虫モニタリングシステムを活用した予察精度の検証

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

新型予察灯と水銀予察灯を比較して、新型予察灯による果樹カメムシ類の発生予察が可能か検討した。その結果、新型予察灯の誘殺数に対するAIの認識率はミナミアオカメムシを除き、主要な果樹カメムシ類に対して概ね90%以上と高く、写真上のカメムシに関して、AIの識別精度は目視による調査とほぼ同等だった。誘殺数は水銀予察灯に比べてやや少なく、発生消長(誘殺ピーク)は一致していた時期もあったが、完全には一致していなかった。なお、害虫同定作業の省力化の可能性も示唆された。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ウ チャバネアオカメムシに対する薬剤の防除効果

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

果樹カメムシ類の防除対策を目的に野外試験を行った。その結果、散布1日後接種では2剤の殺虫および吸汁阻害効果が、県内で使用されるジノテフラン水溶剤2,000倍液とほぼ同等だった。被害も認められなかったことから、実用性はあると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

エ チュウゴクアミガサハゴロモの薬剤感受性検定(予備試験)

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

本種に対する各種薬剤の効果を把握することを目的に室内で薬剤感受性検定を行った。その結果、ジノテフラン水溶剤 2,000 倍液およびアセタミプリド水溶剤 4,000 倍液の殺虫効果は高いと考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(6) ダニ類の防除対策

ア ナシハダニ類の薬剤感受性検定 (室内試験)

(ア) 琴浦系カンザワハダニ

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：東伯普及所

ハダニ類に対する薬剤感受性を明らかにする目的で東伯郡琴浦町の現地ナシ園で採取したカンザワハダニに対する各種ダニ剤の効果を確認した。その結果、雌成虫に対して効果の低下した殺ダニ剤も数種認められるが、基幹防除に採用されている殺ダニ剤の効果は高かった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) 八頭系ナミハダニ

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：八頭普及所

ハダニ類に対する薬剤感受性を明らかにする目的で八頭郡八頭町の現地ナシ園で採取したナミハダニに対する各種ダニ剤の効果を確認した。その結果、複数の殺ダニ剤で効果は低かったが、実用性のある殺ダニ剤も認められた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ ナシにおけるアシノナピル水和剤と有機銅剤の散布間隔

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

アシノナピル水和剤の最適な使用方法について明らかにすることを目的として野外試験を実施した。その結果、有機銅剤とアシノナピル水和剤の散布間隔が 40 日以上の場合には高い防除効果が認められたが、30 日以下の場合には効果が認められるがその程度はやや低かった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ウ カキにおけるフルアジナム水和剤散布が及ぼす影響

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

開花期前（5月中旬）のフルアジナム水和剤単用および混用散布による、‘輝太郎’の交配への影響について明らかにする目的として野外試験を実施した。その結果、生理落果率に有意な差は認められず、葉と花の葉害も認められなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

エ 鳥取県のブドウ園におけるダニ類の発生種および発生時期

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

県東中部におけるダニ類の発生種および発生時期を明らかにする目的で巡回調査を実施した。その結果、ブドウヒメハダニは5月中旬に発生が認められ、カンザワハダニは7月中旬に発生が認められはじめ、8月には多くの園で発生が認められた。ナミハダニおよびブドウサビダニの発生は認められなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(7) チョウ目害虫の防除対策

ア ナシにおけるクワゴマダラヒトリの防除対策 (室内試験)

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

クワゴマダラヒトリ幼虫に対して防除効果が高い殺虫剤を明らかにする目的で試験を実施した。その結果、中齢幼虫に対して4月中旬に薬剤を散布する場合、殺虫剤7剤において殺虫効果または食害阻害効果が高く、実用性はあると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ ハスモンヨトウの薬剤感受性検定 (室内試験)

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：なし

果樹園に飛来するハスモンヨトウに対して防除効果の高い薬剤を明らかにする目的で、葉片浸漬法を用いてハスモンヨトウ3齢幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果を評価した。その結果、殺虫剤7剤の防除効果が高く、実用性はあると思われた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(8) コウチュウ目害虫の防除対策

ア キクイムシ類に対する防除対策

担当者：皆川雄哉・北山淑一

協力分担：西部普及所、経営支援課

野外試験によりトラサイドA乳剤の代替剤を検討した結果、フェンプロパトリンエアゾルの殺虫効果が高かった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

4. 鳥取県オリジナル品種等の多収安定生産技術の確立

(1) ‘新甘泉’の収穫適期の拡大

ア 袋の種類の違いが‘新甘泉’の収穫時期に及ぼす影響

担当者：谷脇恵吾・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

‘新甘泉’の収穫期間拡大を目的に、新聞袋または褐色一重袋を被覆した結果、両袋とも無袋と比べ収穫始めは1週間程度前進化できたが、新聞袋は遮光率が高いため、白熟れになることから実用性は低いものと考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ エテホン液剤の散布効果

(ア) 場内試験

担当者：中西彩歌・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

熟期促進の目的で、無袋栽培および有袋栽培の‘新甘泉’に対して満開後100日にエスレル10 2,000倍液を散布した結果、果色の進みが早まり、7日程度の熟期促進効果が認められた。また、変形硬化症を助長しなかった。さらに、エテホン液剤散布の有無に関わらず室温

(25℃)条件下で11日間程度の貯蔵が可能であった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 現地試験

担当者：中西彩歌・濱上彩・井戸亮史

協力分担：八頭普及所、倉吉普及所、東伯普及所、西部普及所

熟期促進の目的で、現地の無袋栽培園2園および有袋栽培園2園の‘新甘泉’に対して満開後100日にエスレル10 2,000倍液を散布した結果、場内試験と同様に果色の進みが早まり、熟期促進効果が認められた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) ジベレリン塗布

担当者：中西彩歌・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

熟期促進の目的で、無袋‘新甘泉’に対して満開後37日にジベレリンペーストを果梗へ塗布処理した結果、熟期促進効果は認められなかった。一方、変形硬化症の発生が多い傾向がみられた。さらに、無処理では室温(25℃)条件下で11日間程度は貯蔵が可能であったが、ジベレリンを塗布すると5日程度に短縮された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(エ) エテホン液剤の散布時期の検討

担当者：中西彩歌・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

熟期促進の目的で、無袋‘新甘泉’に対して横径30mm時にエスレル10 2,000倍液を散布しても熟期促進は認められなかった。一方、横径60mm時に散布した結果、満開後100日散布と同様に7日程度果色の進みが早まった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(2) ‘秋甘泉’の裂皮軽減対策の検討

ア BS資材(グリーンステム)の散布が‘秋甘泉’の裂皮に及ぼす影響

担当者：亀岡靖崇・遠藤貴裕・井戸亮史

協力分担：株式会社ファイトクローム

‘秋甘泉’の裂皮軽減を目的として、BS資材のグリー

システムを散布した結果、裂皮軽減効果は認められなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(3) ‘鳥園L’の高品質果実生産技術の確立

ア 袋の種類による検討

担当者：濱上彩・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

果実袋の違いによる‘鳥園L’および‘甘太’の果実品質への影響を明らかにする目的で3種類の果実袋を被袋した結果、‘鳥園L’では外観に大差はなかったが、糖度は、褐色一重袋および無袋が白パラ袋および改良合わせ袋よりも高かった。一方、‘甘太’の外観は果実袋によって大きく異なった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ 黒星病感受性検定

担当者：濱上彩・川上和博・井戸亮史・山田高之

協力分担：なし

‘鳥園L’の黒星病に対する感受性の強弱を明らかにする目的で、幼葉および果実に黒星病懸濁液を接種した。その結果、‘鳥園L’の幼葉における黒星病感受性は、‘新甘泉’と差がなく、‘幸水’および‘おさゴールド’より高かった。また、満開後73および84日に接種した‘鳥園L’の果実は、‘幸水’および‘新甘泉’より黒星病に対する感受性が低かった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

5. ナシ栽培の革新的な省力化技術の確立

(1) ジョイント栽培の高品質・安定多収栽培技術の確立

ア ‘新甘泉’のジョイント栽培における超早期多収栽培技術の開発

担当者：濱上彩・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

通常のジョイント栽培を上回る超早期多収技術を開発することを目的に、大苗の予備新梢を切除せず、側枝として使用する方法について検討した。その結果、定植3年目で、ジョイント栽培マニュアルにある定植4年目(着

果2年目)の参考値とはほぼ同等の収量を得ることができた。2か年の累計は、早期着果区が慣行区の約2倍となった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ ‘新甘泉’の腋花芽の利用が収量・果実品質に及ぼす影響(着果3年目)

担当者：中西彩歌・谷脇恵吾・井戸亮史

協力分担：なし

‘新甘泉’の初期収量および粗収益を上げる目的で、本来は使用しない腋花芽が着生した1年枝を棚付けし、短果枝および腋花芽の両方に着果させた結果、着果2年目までは短果枝花芽のみ利用(慣行)より収量、粗収益が増加したが、着果3年目はその差は小さくなった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ウ 夜間のFR光照射による補光が‘おさゴールド’苗木の伸長に及ぼす影響

担当者：濱上彩・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

330cm以上のジョイント用大苗を育成する目的で、‘おさゴールド’の苗木に夜間FR光を照射した結果、慣行法(ジベレリン塗布3回)で育成した苗木と同等の長さの苗木を育成することができた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

エ ヒオモン水溶剤による‘新甘泉’の新梢伸長抑制効果の検討

担当者：川上和博・井戸亮史

協力分担：アグロカネショウ(株)

ジョイント仕立て‘新甘泉’の側枝上に発生する新梢の摘心作業省力化を目的として側枝上の新梢を6月1日に摘心した後、満開後50日と満開後60日にそれぞれヒオモン水溶剤2,000倍液を散布した結果、5回の摘心を行った慣行区と比較して新梢伸長抑制効果および作業時間の削減効果は認められなかった。一方、果実品質は差が無かった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

オ ‘おさゴールド’のV字トリス仕立てにおける

主枝高および側枝仰角の違いが樹体生育に及ぼす影響

担当者：川上和博・井戸亮史

協力分担：なし

‘おさゴールド’に適する主枝高や側枝仰角を検討する目的で、4つのジョイント樹形(仰角60°、45°、30°、0°(慣行))を設定した結果、植付2年目となる本年は、側枝仰角の違いによる新梢本数および新梢長に差はなかった。一方、幹周は、V-30°区および慣行区が、V-45°区およびV-60°区より太く、総新梢長と幹周の間に有意な正の相関が認められた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

カ ‘おさゴールド’ ジョイント仕立て樹における新梢管理方法の違いが果実品質に及ぼす影響

担当者：川上和博・井戸亮史

協力分担：なし

新梢管理方法の違いが‘おさゴールド’ジョイント仕立て樹の果実品質に及ぼす影響を検討する目的で、側枝上に発生した新梢を3回摘心又は誘引した結果、誘引区の方が葉面積指数は大きくなったが、果重、糖度に差は認められなかった。また、誘引区の方が摘心区よりも省力的だった。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

キ 二十世紀系品種の袋かけ省略化に向けた果面保護剤の検討

担当者：井戸亮史・川上和博

協力分担:JA 全農とっとり、JA 鳥取中央、シブヤ精機、東郷果実部

大袋の省略化を目的として、中袋をかけ、破袋して行く時期に果面保護剤(グリーンナー)を散布した結果、中袋単独の果実よりもアザの発生が抑えられた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

ク ジョイントV字トレリスの生産性の検討

(ア) ‘甘太’ および ‘王秋’ (短果枝花芽の維持が容易な品種) の検討

担当者：井戸亮史・川上和博・谷脇恵吾

協力分担：なし

JV の果実品質や収量性を評価する目的で県内に普及している JH と比較した結果、‘甘太’‘王秋’とも JH の果実が大きくなる一方で、糖度は JV で高くなった。また本年は両品種とも JH で収量が多くなった。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

(イ) ‘新甘泉’ (短果枝花芽の維持が困難な品種) の検討

担当者：井戸亮史・川上和博・谷脇恵吾

協力分担：なし

JV の果実品質や収量性を評価する目的で県内に普及している JH と比較した結果、果実品質に大きな差はなかったが、収量は JH 区では昨年よりも増加、JV45区(側枝仰角45°)は横ばい、JV60区(同60°)は減少した。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

ケ ‘王秋’ ジョイント仕立て樹の効率的な土壌改良方法の検討

担当者：川上和博・谷脇恵吾・井戸亮史

協力分担：なし

‘王秋’のコルク状果肉障害の発生低減に効果的な土壌深耕をジョイント仕立て樹において効率的に実施する方法を確立する目的で、株元から50cm離れた位置を列深耕した結果、コルク状果肉障害の発生率、発生程度の改善は認められなかった。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

コ 株元への除草剤散布がナシの1年生苗木の生育に及ぼす影響

担当者：谷脇恵吾・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

ナシ育苗ポット内に除草剤を散布した場合の樹体生育への影響を検討する目的で、‘新甘泉’、‘王秋’、‘夏さやか’苗の株元にグリサホート系の除草剤(サンフーロン)50倍希釈液を散布した結果、除草剤による薬害と思われる新梢先端の枯れや退緑症状が認められた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

サ 植付け1年目の‘新甘泉’苗木株元へのポリエチレンフィルム被覆が初期生育に及ぼす影響

担当者：中西彩歌・谷脇恵吾・井戸亮史

協力分担：なし

乾燥防止と地温上昇によりジョイント大苗の定植後の初期生育を向上させる目的で、3月下旬～5月下旬の2か月間、農業用ポリエチレンフィルムを株元に被覆した結果、主幹径は増大したが、新梢本数や新梢長は無処理と同等だった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

シ 腹接ぎの穂木固定用資材の検討

担当者：中西彩歌・谷脇恵吾・井戸亮史

協力分担：なし

発芽が見込めない主枝側面へ穂木を接ぐ際の簡易な固定方法を検討する目的で、テープ、ラップ、タッカー、メデール（慣行）を試行した結果、タッカーは作業性に優れたが、活着が悪く、その他の作業性は同等であったことから総合的にはメデールが最も良かった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

6. 気候変動に負けない高品質果実生産技術の確立

(1) 温暖化の影響評価と対応技術の開発

ア ‘新甘泉’の日焼け果軽減対策

(ア) 着果位置が日焼け果の発生に及ぼす影響

担当者：中西彩歌・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担：なし

着果位置と日焼け果の関係性を明らかにする目的で、2本主枝仕立ておよびジョイント仕立てにおいて樹形図を作成し、調査した結果、2本主枝仕立てでは午後から日当たりが良い南西側の果実が日焼けしやすい傾向がみられた。一方、ジョイント仕立ては方位との関係性は認められなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) 遮光性の高い果実袋が日焼け果発生に及ぼす影響

担当者：中西彩歌・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担：なし

‘新甘泉’の日焼け果の発生を低減する目的で、日焼け対策として効果的ではあるが、現在市販されていない

チタン袋の代替として新聞袋を被覆した結果、チタン袋と同等の効果が認められた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(ウ) サンテ®白の使用可能回数の検討（使用回数4回目）

担当者：遠藤貴裕・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

‘新甘泉’の日焼け軽減効果があるサンテ®白の使用可能回数を検討する目的で、3回（令和4、5、6年）使用したサンテと新品を‘新甘泉’に被覆して比較したが、日焼け果軽減効果は判然としなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ 前年の高温が翌年の‘新甘泉’における変形硬化発生に及ぼす影響

担当者：濱上彩・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

花芽分化期の高温が‘新甘泉’の変形硬化発生に及ぼす影響を明らかにする目的で、前年に高温処理した結果、収穫期の果実では変形硬化発生への影響は認められなかったが、幼果の果形を悪くする可能性が示唆され、収穫期の果実における変形果も増える傾向がみられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ウ 中間台品種の違いが‘夏さやか’の枝幹病害の発生に及ぼす影響

担当者：川上和博・谷脇恵吾・山田高之・井戸亮史

協力分担：なし

樹幹病害に弱い‘夏さやか’ジョイント仕立て樹の中間台品種（‘夏さやか’、‘おさゴールド’、‘新興’）とその長さ（80cm、160cm）を検討した結果、本年は、枝幹病害の発生がなかったため、処理効果は判然としなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

エ ‘王秋’のコルク状果肉障害軽減対策

(ア) 高温期の樹上散水が‘王秋’のコルク状果肉障害の発生に及ぼす影響

担当者：谷脇恵吾・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担：なし

‘王秋’のコルク状果肉障害の発生低減を目的に「120秒散水（15分休止）」を繰り返す樹上散水を行った結果、棚下温度は約1℃低下し、コルク状果肉障害発生率が20%程度低減できた。一方で、樹上散水による糖度の低下や圃場のぬかるみ等作業性が低下した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

（イ）袋の種類が‘王秋’のコルク状果肉障害の発生および果実品質に及ぼす影響

担当者：谷脇恵吾・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担：江見製袋（株）

‘王秋’のコルク状果肉障害の発生低減を目的に遮光率が高い5種類の高湿障害対策袋を被覆した結果、いずれの袋もコルク状果肉障害の低減効果は認められず、糖度の低下や白熟れになることから実用性は低いと考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

（ウ）受粉樹‘ネパールみのるB’の花粉が‘王秋’のコルク状果肉障害の発生に及ぼす影響

担当者：谷脇恵吾・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担：なし

‘王秋’のコルク状果肉障害の発生低減を目的に、ネパール由来ナシ‘ネパールみのるB’の花粉を使用して人工受粉した結果、コルク状果肉障害の発生低減効果が認められた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

（エ）寒冷紗による遮光が‘王秋’のコルク状果肉障害の発生に及ぼす影響

担当者：井戸亮史・川上和博・中西彩歌・谷脇恵吾

協力分担：なし

夏季の高湿による‘王秋’のコルク状果肉障害の発生を低減する目的で樹上に寒冷紗を設置し遮光した結果、棚面の温度が下がり、障害の発生も低減できた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

オ 元肥および夏肥の有無が果実品質および樹体生育に及ぼす影響（19年目）

担当者：谷脇恵吾・遠藤貴裕・井戸亮史

協力分担：なし

元肥および夏肥の必要性を明らかにする目的で慣行区（窒素量 15kg/10a）、夏肥無区、元肥無区、元肥夏肥無区の4処理区を設定して‘おきゴールド’に19年間連続処理を行った結果、果実品質および樹体生育ともに処理区間に差は認められなかったことから元肥および夏肥を無施用としても、慣行施肥体系と同等の果実生産が可能であると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

カ 化学肥料2割低減試験（2年目）

担当者：谷脇恵吾・濱上彩・井戸亮史

協力分担：JA全農とっとり、生産振興課

化学肥料2割低減施肥体系の実証を目的として、‘ゴールド二十世紀’（37年生）にJAオリジナル堆肥入り肥料1号（含有機質62.5%）および2号（含有機質73.7%）を施用した結果、1号区は、慣行区と同等の果実品質および樹体生育となった。一方で、2号区は、果重および糖度の低下が認められた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

キ 鶏糞の施用が‘新甘泉’の果実品質に及ぼす影響（1年目）

担当者：谷脇恵吾・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

肥料コストを低減する目的で、安価で入手しやすい鶏糞を‘新甘泉’に使用した結果、年間の肥料コストは7割程度削減し、果実品質は慣行区と同等であった。一方、散布量が4倍になるため作業負担は大きくなった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ク ‘輝太郎’の日焼け果発生状況調査

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

‘輝太郎’の日焼け果対応策を検討する目的で発生実態を調査した結果、果実への日当たりが良いと日焼け果が多くなり、方位に差はなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ケ ‘輝太郎’の日焼け果軽減対策の検討（予備試験）

担当者：遠藤貴裕・井戸亮史

協力分担：東レコムズ愛媛（株）

‘輝太郎’の日焼け果を軽減させる目的でサンテ®白を被覆した結果、軽減効果は認められず、さらに被覆により裂皮および汚損果が増えることから‘輝太郎’にサンテを被覆する実用性は低いと考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

コ サビケアMの検討（予備試験）

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：晃栄化学工業株式会社

‘輝太郎’の日焼け軽減を目的として、果面コーティング葉面散布肥料のサビケアMを散布した結果、日焼けを大きく軽減する効果は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

サ 鳥取県におけるカンキツ類栽培試験

（ア）極早生・早生ウンシュウミカンの栽培適性の検討

担当者：谷脇恵吾・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

本県における極早生、早生のウンシュウミカンの栽培適性を検討する目的で各3品種ずつ栽培しているが、いずれの品種も主産地の出荷品質基準を満たさなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

（イ）シールドイング・マルチ栽培の検討

担当者：谷脇恵吾・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：農林水産政策課

ウンシュウミカンの高品質果実生産を目的に‘ゆら早生’においてシールドイング・マルチ栽培法を導入した結果、露地栽培よりも2週間早く着色し、糖度は約1%高い食味の良い‘ゆら早生’を生産出来た。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

（2）果樹の生態調査

ア 花粉用品種の開花期および花芽着生量に関する調査

担当者：遠藤貴裕・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

ナシ花粉用品種（‘長十郎’および‘山梨’）の開花期、花芽着生率を調査し、気象条件との関係を検討した結果、本年は3月上旬から中旬の平均気温が平年よりも約1℃から3℃低かったことから‘長十郎’の満開日は、平年よりも1日、‘山梨’は同3日遅かった。また、7月下旬の平均気温は平年よりも高く、7月上旬の日照時間は平年よりも長かったことから、‘長十郎’の花芽着生率は平年を上回った。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ ナシの新梢発育に関する調査

担当者：遠藤貴裕・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

本県における主要ナシ品種の生育状況を把握するため‘ゴールド二十世紀’、‘新甘泉’、‘王秋’の新梢発育を調査した結果、いずれの品種も新梢停止期は平年並で、新梢長は‘新甘泉’が平年を上回り、‘ゴールド二十世紀’、‘王秋’は平年を下回る生育であった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ウ ナシの花芽生育の調査

担当者：遠藤貴裕・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

近年の地球温暖化を始めとする気候変動が、ナシの花芽生育に与える影響を把握するため、主要品種の発芽から開花までの生育状況を調査した。その結果、短果枝花芽の生育は‘ゴールド二十世紀’および‘新甘泉’がほぼ同等であり、‘王秋’は花芽の先端が割れた時期（ステージ4.5）以降‘幸水’とほぼ同等であった。昨年（令和6年）と比較すると、‘ゴールド二十世紀’の生育はやや早く、‘新甘泉’、‘王秋’は早く、‘幸水’は同等の生育で、各品種とも一昨年（令和5年）よりも遅かった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

エ ナシの防除適期の予測

担当者：遠藤貴裕・井戸亮史・池田隆政

協力分担：なし

開花前の防除適期を予測する目的で、平成27年～令和6年の‘ゴールド二十世紀’の発芽期から開花始めま

での平均日数から本年の開花始めを予測した（予測①）。また、平成 27 年～令和 6 年の各年における発芽期から開花始めまでの日数と発芽期の翌日から 7 日間の最高気温の積算値との回帰式（ $y = -0.0434x + 16.465$ ）から本年の開花始めを予測した（予測②）。その結果、実際の開花始めとの誤差は、予測①で 2 日、予測②で 1 日であり、実用性は高いと考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

オ ナシの収穫適期の予測

担当者：濱上彩・井戸亮史・池田隆政

協力分担：なし

‘ゴールド二十世紀’および‘新甘泉’の生育予測をする目的で、収穫始めの暦日と気温データを用いて回帰分析を行った結果、収穫始めの予測式を作成できた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

カ 作況調査

担当者：遠藤貴裕・谷脇恵吾・井戸亮史・石河利彦

協力分担：JA 全農とっとり、生産振興課

主要果樹（ナシ、カキ、ブドウ）の作柄を把握する目的で、10 日ごとに果実の肥大調査、収穫時に果実品質の調査を行った。

ナシの満開日は‘ゴールド二十世紀’、‘王秋’が平年よりも 1 日遅く、‘新甘泉’が平年並であった。果実肥大は‘ゴールド二十世紀’で概ね平年並から平年以上であり、‘新甘泉’は平年並から平年を上回って推移する期間が長く、‘王秋’は 7 月中旬まで良好であった。果重は、‘ゴールド二十世紀’、‘新甘泉’、‘王秋’のいずれも平年を上回った。

カキの開花最盛期は平年並から 1 日早かった。‘富有’の果実肥大は概ね平年並から平年以下で推移した期間が長かったことから平年よりも小玉となった。‘西条’、‘輝太郎’の果実肥大は概ね平年並で推移したことから、収穫果実は平年並の大きさであった。

ブドウは‘巨峰’、‘ピオーネ’とも平年より展葉が 5 日程度遅く、開花期も 5 日程度遅かった。着色始めは‘巨峰’が平年より 2 日程度、‘ピオーネ’が 7 日程度早まっ

た。収穫果実の甘味比は高く、粒重は‘巨峰’が平年より小さく、‘ピオーネ’はやや大きかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

キ カキ品種特性調査

担当者：稲本俊彦・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担：なし

当年の作柄を把握すること、気候変動によるカキ栽培への影響を評価する基礎データを収集することを目的に、カキの品種特性、作柄を調査した結果、展葉期は平年より遅かったが、展葉期以降は気温が高い日が多く、‘輝太郎’、‘西条’、‘富有’の開花期は平年並みとなった。夏秋季の高温の影響により、全ての品種で着色遅延気味となった。また、9 月上旬以降の断続的な降雨により、‘輝太郎’では裂皮が発生し、他品種系統では汚損が多く発生した。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ク カキ園土壌のアレロパシー活性の実態把握

担当者：稲本俊彦・谷脇恵吾・井戸亮史

協力分担：なし

カキ園土壌におけるアレロパシー物質の存在を確認することを目的にアレロパシー検定を行った結果、検定植物であるレタスの根長伸長は阻害され、カキ園土壌におけるアレロパシー物質の存在が示唆されたが、降水量 1,600mm に相当する水量で洗浄することで、アレロパシー物質の除去が可能と考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ケ ‘輝太郎’の果実肥大および着色と気象条件との関係性の解析

担当者：稲本俊彦・濱上彩・井戸亮史

協力分担：なし

‘輝太郎’の生育と気象の関係性について明らかにすることを目的に果実肥大および着色と気象条件との関係性について解析を行った結果、4 月上中旬の高温は開花を早めて果実肥大を促進的に、8 月上中旬および 9 月上中旬の高温は果実着色に抑制的な影響をもたらすことが明らかとなった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

7. 「輝太郎」を核としたカキ産地力強化に向けた栽培技術の確立

(1) 「輝太郎」早期成園化・早期収量確保技術の確立 ア ジョイントV字トリス仕立てが「輝太郎」の早期成園化・省力化に及ぼす影響

担当者：川上和博・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

「輝太郎」の早期成園化および省力化を目的として、ジョイントV字トリス (JV) 仕立てと慣行 (2本主枝) 仕立ての樹体生育および初期収量を検討した結果、植付4年目の本年は、総結果母枝数および主幹径は、JV区が優った。総結果母枝長、果実品質は両区で差がなかった。JV区は生理落果が多かったが、10a当たり収量は多かった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ ポット育苗2年苗生大苗が「輝太郎」の早期樹冠拡大に及ぼす影響

担当者：川上和博・井戸亮史

協力分担：なし

「輝太郎」の早期樹冠拡大を目的として、1年生苗木をさらに1年間ポット育苗した2年生大苗をほ場に定植した結果、1年生苗を定植する慣行法の方が樹体生育が優れ収量も多かった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ウ 土壌保水材処理が「輝太郎」苗木の生育に及ぼす影響

担当者：川上和博・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

土壌保水材の効果を検討する目的で「輝太郎」苗木の植え付け時に土壌保水材 EF ポリマー (EFPolymer (株) 製) を 0.5% 量混和した結果、7月以降の高温乾燥時は土壌水分の保持効果は認められず、生育促進効果も認められなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

エ 接ぎ木時に使用するポリエチレンフィルムの食い込みが「輝太郎」の生育に及ぼす影響

担当者：濱上彩・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

安価なため苗木育成時の接ぎ木部に使用されるフィルムの食い込みが生育に及ぼす影響を調査する目的で、食い込みがある苗木とない苗木の生育を比較した結果、フィルムの食い込みにより、一部の樹で樹勢低下がみられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(2) 「輝太郎」果実品質向上のための技術開発 ア 「輝太郎」の熟期促進の検討

(ア) 樹上散水による「輝太郎」の熟期促進の検討

担当者：稲本俊彦・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担：なし

「輝太郎」の熟期促進を目的に9月1日から10月18日までの午前9時から午後5時まで3分樹上散水 (15分休止) を行った結果、気温が低下したことで果皮色が進み、収穫期が3日程度前進化した。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) エチクロゼートとエテホンの併用処理および環状剥皮処理が「輝太郎」の熟期促進に及ぼす影響 (予備試験)

担当者：稲本俊彦・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

環状剥皮に代わる「輝太郎」の熟期促進技術の開発を目的に、エチクロゼートとエテホンの併用処理および環状剥皮処理を行った結果、環状剥皮は果皮色向上および後期落果軽減効果が確認されたが、エチクロゼートとエテホンの併用処理では効果は認められなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(ウ) BS資材 (ヒートインパクト) が「輝太郎」の果実品質に及ぼす影響 (予備試験)

担当者：稲本俊彦・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

果皮色向上および日焼け軽減を目的にヒートインパクト処理を4回 (7月24日、8月9日、8月22日、9月3日) 行ったが、「輝太郎」の果実品質向上効果は認めら

れなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 果実袋による‘輝太郎’の外観品質向上の検討

(ア) 果実袋の被覆が‘輝太郎’の着色に及ぼす影響 (裂皮果を除く)

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

‘輝太郎’の着色遅れが果実袋の被覆による影響が明らかにする目的で、裂皮果を除いて一斉収穫し、着色への影響を評価した結果、被覆による着色の遅れはみられなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 果実袋の被覆が‘輝太郎’の着色に及ぼす影響 (累計収穫)

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

‘輝太郎’の着色遅れが果実袋の被覆による影響が明らかにする目的で、裂皮果を除いて適熟果を随時収穫した結果、被覆することで収穫期が約3日遅れた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) 環状剥皮による着色促進

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

果実袋を被覆した‘輝太郎’の着色促進を目的として、7月中旬に環状剥皮処理をした結果、着色(特にヘタ部)の遅れが改善された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(エ) 除袋による果実品質の検討

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

収穫適期の判断を容易にする目的で、収穫約1か月前に除袋処理を行った結果、収穫の適否判断は容易となったが、日焼けや裂皮が増加した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(オ) 果実の大きさが果実袋被覆時の汚損発生に及ぼす影響

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

果実袋を被覆した‘輝太郎’の果実側面にみられる汚損が、果実の大きさによる影響か検討する目的で、適熟果を随時収穫した結果、果実の大きさと汚損との関係性は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(カ) 果実袋の検討

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：江見製袋株式会社

袋掛けによって発生する汚損は袋が果面への接触することが要因と考えられることから、これを防ぐ目的で既存より大きい果実袋を被覆した結果、果面との接触程度は改善されず、果実品質および外観品質も向上しなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ウ ‘輝太郎’の裂皮軽減対策の検討

(ア) 降雨が裂皮に及ぼす影響(予備試験)

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

‘輝太郎’の裂皮と果面の濡れとの関連性を明らかにする目的で、土壌水分を同一条件とした上で、ミスト散水により人為的に果面を濡らした結果、裂皮が増えた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) グリーンステムの検討

担当者：亀岡靖崇・稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：株式会社ファイトクローム、大山普及支所

‘輝太郎’の裂皮軽減を目的として、BS資材のグリーンステムを散布した結果、裂皮の初期発生をやや抑えたが、収穫盛期以降の裂皮は抑えられなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

エ 天然型アブシジン酸含有肥料による‘輝太郎’着色促進の検討

担当者：川上和博・井戸亮史

協力分担：(有)バル企画

‘輝太郎’の着色促進を目的に、ABA天然型アブシジ

ン酸含有肥料ミヨビンテージ ((有) バル企画) の 50,000 倍液を 2 回 (7 月 31 日、9 月 4 日) 灌注処理した結果、へた部の着色促進効果が認められた。

〈本試験成績登載印刷物:なし〉

(3) 既存品種の生産安定

ア ‘花御所’ のへたすき果軽減対策試験 (現地ほ場)

(ア) 着果管理の早晩が ‘花御所’ の果実品質に及ぼす影響

担当者: 稲本俊彦・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担: 郡家柿生産部、JA 鳥取いなば、八頭普及所

‘花御所’ のへたすき軽減を目的に、摘らいおよび摘果の早晩による着果管理を実施した結果、へたすき軽減効果は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物:なし〉

(イ) ホルクロルフェニユロン処理が ‘花御所’ および ‘富有’ の果実品質に及ぼす影響 (予備試験)

担当者: 稲本俊彦・中西彩歌・井戸亮史

協力分担: なし

へたすき軽減を目的に 4 月中旬に 10ppm ホルクロルフェニユロン処理を行った結果、‘花御所’ および ‘富有’ のへたすき軽減効果は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物:なし〉

8. 新技術を活用した他産地に打ち勝つブドウ栽培技術の確立

(1) ‘シャインマスカット’ に続く有望品種の検討

ア ‘ナガノパープル’ の特性調査

担当者: 森本隆義・石河利彦

協力分担: なし

‘ナガノパープル’ の本県砂丘畑での適応性を検討するため、果房の品質調査を行ったところ、粒重は ‘ピオーネ’ と同等で、糖度は 18%、安定的に黒色に着色し、皮ごと食べられることから有望な品種と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物:なし〉

イ ‘ナガノパープル’ の特性調査 (6 か年まとめ)

担当者: 森本隆義・石河利彦

協力分担: なし

‘ナガノパープル’ を 6 年間栽培した結果、‘ピオーネ’ と比較して収穫時期が 7~10 日程度遅く、果粒が小さめで、糖度が高く、高温時でも安定的に着色し、皮ごと食べられることから有望な品種と考えられた。なお、初成りから数年間は幼木時に裂果しやすい傾向があるので、注意が必要である。

〈本試験成績登載印刷物:なし〉

ウ ‘富士の輝’ 等の特性調査 (令和 7 年)

担当者: 森本隆義・石河利彦

協力分担: なし

根域制限栽培において、有望品種の適応性を検討したところ、‘富士の輝’ は昨年に続いて大玉で高糖度であり有望と考えられた。‘スカーレット’ は収量性、着色性、着花性が良かった。

〈本試験成績登載印刷物:なし〉

(2) 基幹品種の高品質化

ア ‘ピオーネ’ のアブサップ処理による着色向上

担当者: 石河利彦・森本隆義

協力分担: 住友化学 (株)

着色向上を目的にアブサップ処理について検討したところ、処理区では無処理区に比べて着色が促進されたが、処理する房が大きいと効果が低くなると考えられた。また、果色以外の果実品質では差がほとんどみられないため、収穫する際は果色だけでなく、糖度や酸度などの確認が必要と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物:なし〉

イ EOD 加温によるハウス栽培の前進化および高品質化の検討

担当者: 森本隆義・石河利彦

協力分担: なし

‘シャインマスカット’ の出荷時期の前進化および高品質化を目的に、省エネルギー栽培法として注目されている EOD 加温技術 (日没後に短時間加温) した結果、収穫日が 10 日程度早まり、果粒が大きくなる効果が確認

された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ウ ‘シャインマスカット’のMA包装による鮮度保持試験

担当者：森本隆義・石河利彦

協力分担：なし

‘シャインマスカット’の長期保存法を開発するため、MA包装資材を用いて冷蔵保存した結果、翌年4月（7か月間）までの鮮度保持の可能性が示唆された。また、従来のフレッシュホルダーを用いた冷蔵保存技術では12月（3か月間）までが冷蔵保存の限界であった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

9. 市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸新品種の育成

(1) 極早生および高品質ナシの育成

ア 定植前選抜

担当者：濱上彩・稲本俊彦・川上和博・井戸亮史

協力分担：なし

黒星病抵抗性品種作出のため令和6年に交雑を行った個体から、黒星病抵抗性個体の獲得を目的に遺伝子診断した結果、計79個体の黒星病抵抗性個体を獲得し、そのうち77個体をほ場に定植した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 未選抜系統の果実調査

担当者：濱上彩・川上和博・井戸亮史

協力分担：なし

極早生及び高品質ナシを育成するため、未選抜系統の果実品質調査を行った結果、10の未選抜系統から2系統を選抜候補とした。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ウ 選抜候補系統の果実特性調査

担当者：濱上彩・川上和博・井戸亮史

協力分担：なし

極早生及び高品質ナシを育成するため、選抜候補17系統の果実調査を行った結果、7系統を淘汰し、10系統を

継続調査とした。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(2) ナシ新品種、新系統の評価試験

ア 場内試験

担当者：濱上彩・川上和博・井戸亮史

協力分担：なし

県内外で育成されたナシ新品種、新系統の本県における適応性を検討する目的で、7系統13品種の生育特性および果実品質調査を行った。その結果、民間育種家が育成した‘甘ひびき’、兵庫県が育成した‘但馬1号’は5年間の調査を通して、生理障害等、栽培上の大きな問題が確認されないことから、本県における適応性があると判断し、調査を終了した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 現地栽培試験

担当者：濱上彩・川上和博・井戸亮史

協力分担：なし

鳥取園試が育成した選抜系統である5系統の品種登録の是非を判断することを目的に、現地栽培試験を開始した。また、鳥取園試の果実調査では、選抜系統はいずれも高糖度であったが、前年の結果と異なり、収穫時期が盆後となった系統が3つあった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ウ 短果枝着生性の育種選抜に利用可能なDNAマーカーの開発

担当者：濱上彩・井戸亮史

協力分担：農研機構、新潟県、高知県、かずさDNA研究所

「食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト」の中で、短果枝着生性に関するDNAマーカー開発を行うため、本県育成品種および系統の短果枝着生性を評価した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

エ ‘ゆつみ’の機械化樹形への適応性評価

担当者：濱上彩・井戸亮史

協力分担：農研機構、神奈川県、埼玉県、新潟県

「食料安全保障強化に向けた革新的新品種開発プロジェクト」の中で、‘ゆつみ’の機械化樹形への適応性を評価するため、擬似的に作成したV字樹形と慣行の平棚樹形の比較を行った。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

オ ‘ゆつみ’のジョイント栽培適性

担当者：濱上彩・中西彩歌・井戸亮史

協力分担：なし

‘ゆつみ’のジョイント栽培適性を把握するため、収穫時期の近い本県オリジナル品種‘秋甘泉’との比較栽培を開始した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(3) 早生および輸出に適したカキ新品種の育成

ア 交雑種作出

担当者：稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

極早生品種、超高糖度品種および輸出に適した品種の作出を目的に交雑を行った結果、極早生を狙った組み合わせで295個、超高糖度を狙った組み合わせで363個、輸出を狙った組み合わせで519個の種子を獲得した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 幼苗選抜（雄花非着生系統の選抜）

担当者：稲本俊彦・井戸亮史

協力分担：なし

雄花非着生系統の選抜を目的にDNAマーカー選抜を行った結果、令和6年度の交雑で得た301個体のうち、約80%にあたる235個体を淘汰し、66個体を雄花非着生系統として選抜した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(4) 交雑育種によるカキ新品種の育成

ア 未選抜系統の果実調査

担当者：稲本俊彦・亀岡靖崇・井戸亮史

協力分担：なし

河原試験地にて交雑した系統から‘輝太郎’に次ぐ完全甘ガキ品種を育成することを目的に着果がみられた32の未選抜系統の果実調査を行った結果、6系統を注目系

統、6系統を保留、20系統を淘汰とした。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

10. 系統適応性検定試験

(1) 特性調査

ア ナシ

担当者：濱上彩

協力分担：なし

第10回ナシの系統適応性試験で調査対象となっている6種類の育成系統について、樹勢、幹周、発芽期などの特性を調査した。

〈本試験成績登載印刷物：1〉

イ カキ

担当者：稲本俊彦

協力分担：なし

第9回カキ系統適応性検定試験で調査対象となっている3種類の育成系統について、葉の形、落葉期、果形などの特性調査を行った。

〈本試験成績登載印刷物：1〉

ウ ブドウ

担当者：森本隆義

協力分担：なし

第16回ブドウの系統適応性試験で調査対象となっている3種類の育成系統について、農研機構より穂木を受け取り、接ぎ木等の増殖を行った。

〈本試験成績登載印刷物：1〉

《野菜・花き・特産関係》

11. 病害虫発生予察調査事業

(1) 野菜主要病害虫の発生予察調査

担当者：川田久美子・坂井侑香里・竹中春人・北山淑

一

協力分担：病害虫防除所

スイカ、ネギ、イチゴ、ブロッコリー、ラッキョウ、ナガイモ等7品目の野菜について病害虫の発生状況を調

査し、発生予察情報を提供した。これらの主な内容は病害虫防除所ホームページに公開した。

(<https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/>)。

〈本試験成績掲載印刷物：15〉

(2) 病害虫発生状況と防除対策の情報提供

担当者：川田久美子・坂井侑香里・竹中春人・北山淑一

協力分担：病害虫防除所

スイカ、ネギ、イチゴ、ブロッコリー、ラッキョウ、ナガイモ等の病害虫の発生状況と防除対策についての病害虫発生予報を4月から翌年3月まで合計12回、病害虫防除所を通じて発表した。

〈本試験成績掲載印刷物：15〉

(3) 病害虫の診断依頼

担当者：川田久美子・坂井侑香里・竹中春人・北山淑一

協力分担：病害虫防除所

本県特産野菜及び花きについて普及所、JA、生産者から持ち込みのあった病害虫について診断を行い、防除対策を指導した。

スイカ、メロン、ネギ、ナガイモ、イチゴ、ラッキョウ、トマト、ブロッコリー、キャベツなどの野菜類の病害虫診断依頼が1月～12月において120件以上あった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

12. 新農薬適用試験

(1) 野菜主要病害虫に対する新農薬の実用化試験

担当者：川田久美子・坂井侑香里・竹中春人・久米千春・吹野颯音

協力分担：なし

殺菌剤では、ブロッコリー黒すす病、ネギ萎凋病およびナス科青枯病などの防除薬剤、16種類について実用性を評価した。

殺虫剤では、スイカのハダニ類、ネギのシロイチモジヨトウなどの防除薬剤、4種類について実用性を評価した。

〈本試験成績掲載印刷物：8、9〉

13. 園芸産地の今と未来を見据えた病害虫防除対策

(1) ブロッコリーの病害虫防除対策

ア ブロッコリーの病害虫対策

(ア) ブロッコリー根こぶ病に対する耐病性の品種間差の確認

担当者：竹中春人・川田久美子

協力分担：なし

秋冬どりブロッコリーの根こぶ病甚発生ほ場において、本試験での供試品種の中で‘グリーンキャノン’（根こぶ病耐病性品種）と発病度が同等であった品種は9月上旬定植では‘アーリーキャノン’、9月下旬定植では、‘BL-462’であった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) ブロッコリー黒すす病に対する防除効果の検討

担当者：坂井侑香里・川田久美子・北山淑一

協力分担：大山普及支所

ブロッコリー黒すす病の防除体系について検討したところ、無処理が多～甚発生の状況で、生育期前半はいずれの体系も葉の発病を抑制したが、薬剤散布を早めに終えた処理区では収穫中に葉の発病が増加し、花蕾の発病が多くなった。発病増加の要因は薬剤散布のタイミングが早いことによる生育期後半の残効切れに加えて、多発時に散布する薬剤を散布しなかったことも要因の一つと考えられた。他系統を盛り込んだ新体系も対照区と同等の防除効果となったため、実用性が高いと考えられる。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(ウ) ブロッコリー黒すす病に対する防除効果の検討（花蕾の防除方法の検討）

担当者：坂井侑香里・川田久美子・北山淑一

協力分担：なし

ブロッコリー黒すす病の花蕾の防除体系について検討したところ、無処理の葉の発病が多～甚発生の条件下において、薬剤散布を行った試験区は対照区とほとんど同等の防除効果であった。花蕾の防除効果は、最も高かつ

たのは出蕾後から5日おきにQoI剤を散布した区で、次いで定植時～出蕾直前まで無防除で出蕾以降にQoI剤散布を開始した体系で、対照区と同等であった。一方で、出蕾後に予防剤を用いた場合、対照区と比較して花蕾への防除効果が劣り、展着剤を使用することで花蕾の防除効果がさらに低下した。葉と花蕾では薬剤の防除効果が異なることが示唆された。花蕾の防除ではQoI剤の使用が望ましいと考えられたが、単年度の結果であるため、複数年の検討を要する。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(エ) ブロッコリー黒すす病の接種圧の検討

担当者：坂井侑香里・川田久美子・北山淑一
協力分担：なし

ブロッコリー黒すす病の接種圧について検討したが、極少発生のため判断できなかった。葉の発病が極少発生であるにもかかわらず、花蕾に発病したことから、葉の発病と花蕾の発病の程度は必ずしも一致しないことが再確認された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(オ) ブロッコリー黒すす病に対する薬剤抵抗性検定

担当者：坂井侑香里・川田久美子・北山淑一
協力分担：大山普及支所

大山町及び園芸試験場内から採取した黒すす病菌株でSDHI、QoI系統の薬剤抵抗性について検定したところ、今回検定したすべての菌株（ネガティブコントロールを除く）で、パレード20フロアブル、カナメフロアブル、アフェットフロアブルで薬剤で感受性低下を示し、ケンジャフロアブルは採取ほ場によって薬剤抵抗性獲得の有無が異なった。QoIでの感受性低下は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ ドローンを活用した防除方法の検討

(ア) ドローンを活用した防除方法の検討（秋冬：チヨウ目、黒すす病）

担当者：竹中春人、北山淑一
協力分担：鳥取農援（株）

ブロッコリーの出蕾期において、メジャーフロアブルのドローン散布による防除を行った結果、黒すす病に対する葉および花蕾の防除効果は手散布区と同等であった。また、ドローンの散布量による防除効果の差は認められなかった。本試験では葉の防除効果は認められなかったが、散布時期がやや遅くなったこと、散布前の無処理区が最も発病が少ない条件であったため、葉の防除効果が低くなったと考えられた。一方で、花蕾の防除効果は高かった。これは花蕾への薬液付着量が多くなったため、防除効果が高かったと考えられ、体系の試験結果と同様であった。よって少発生条件かつ9割出蕾時のドローン散布は実用レベルであると考えられた

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(2) ナガイモ腐敗症状への対策

ア ナガイモの病害虫対策

(ア) ダゾメット粒剤冬季無被覆処理および定植時粒剤処理による褐変症発生への影響（3年目）

担当者：川田久美子・坂井侑香里・北山淑一
協力分担：東伯普及所、J A鳥取中央

土壌消毒による褐変症および黒陥没症対策のコスト削減を目的に、ダゾメット剤の冬期処理（無被覆）および定植前アゾキシストロビン・メタラキシルM粒剤の本症状発生軽減効果を確認した結果、ダゾメット剤冬期処理（無被覆）は、処理直後に平年より気温が低い日が続いたため、検知できたガスは非常に少なく、褐変症軽減効果は認められなかった。一方、アゾキシストロビン・メタラキシルM粒剤はダゾメット剤との併用により褐変症軽減効果が向上する傾向が認められ、また単用での褐変症軽減効果も認められた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 処理時期の異なるダゾメット剤無被覆処理による芋品質への影響（2年目）

担当者：川田久美子・坂井侑香里・北山淑一
協力分担：東伯普及所、J A鳥取中央

土壌消毒による褐変症および黒陥没症対策のコスト削減を目的に、処理時期の異なるダゾメット剤無被覆処理

による本症状発生軽減効果を確認した結果、3月処理では十分なガス化が認められ、適正に処理できることが確認されたが、1月処理では厳寒期のためガス化が不十分であった。しかしながら、いずれの処理時期においても褐変症軽減効果は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) ナガイモのコガネムシ類に対する薬剤の防除効果の検討

担当者：竹中春人・北山淑一

協力分担：なし

ナガイモ栽培において、慣行防除体系に生育期のフォース粒剤を加えた際の防除効果について検討した結果、アドマイヤー1粒剤の定植時植溝土壌混和+フォース粒剤の生育期株元散布はコガネムシ幼虫に対し、高い防除効果が認められ、栽培期間中の防除薬剤として有望であると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(3) ネギ病害虫防除対策

ア ネギの病害虫対策

(ア) 萎凋病に対する定植前処理による防除効果

(新農薬実用化試験を含む)

担当者：川田久美子・坂井侑香里・北山淑一

協力分担：なし

ネギ萎凋病に対して防除効果が高いものの生育抑制が確認されたマンデストロビン水和剤のトレイ灌注処理の育苗様式の違いによる防除効果および生育への影響を確認する目的で、県中部ネギほ場より採取した本病を用いた汚染ほ場にて検討した結果、いずれの育苗方法においてもマンデストロビン水和剤の防除効果が認められた。チェーンポット苗では生育抑制が認められなかったが、200穴セルトレイ苗では処理61日後まで、448穴セルトレイ苗では処理33日後まで全長、地上部重ともに小さく、生育抑制が認められた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) シロイチモジヨトウに対する感受性検定

担当者：竹中春人・鈴木祐・北山淑一

協力分担：なし

シロイチモジヨトウに対し薬剤感受性検定を行った結果、コテツフロアブル、ファルコンフロアブルはシロイチモジヨトウ3齢幼虫に対し高い殺虫効果が見られた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) ネギアザミウマに対する感受性検定

担当者：竹中春人・鈴木祐・北山淑一

協力分担：なし

和田および渡由来のネギアザミウマに対し薬剤感受性検定を行った結果、アグロスリン乳剤、ベストガード水溶剤、リーフガード顆粒水和剤、グレーシア乳剤、ファインセーブフロアブルはどちらの個体群に対しても高い殺虫効果が見られた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ ネギ葉トロケ症の原因究明と対策検討

(ア) 葉トロケ症より分離した原因菌の同定(令和7年度採取分)

担当者：川田久美子・坂井侑香里・竹中春人・北山淑一

協力分担：鳥取大学、西部普及所

ネギ葉トロケ症状の原因究明および対策の効果確認手法の確立を目的に、令和7年に採取した菌種の同定およびネギへの刺針接種を行った結果、出荷後のサンプルでは80サンプル中1サンプル1地点、栽培途中のサンプルでは24サンプル中9サンプル1地点で *Dickeya fangzhongdai* (以下、Df) が検出された。栽培途中のネギからDfが確認された事例は初である。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 葉トロケ症の防除対策検討(ほ場試験)

担当者：川田久美子・坂井侑香里・北山淑一

協力分担：鳥取大学

Dickeya fangzhongdai 接種ほ場において、各種オキソリニック酸水和剤の散布による出荷後の軟腐病発生軽減効果を調査した結果、スターナ水和剤で軽減効果が認められたが、その程度は低かった。軽減効果が認められたスターナ水和剤のより効果的な散布時期および散布回数

の検討が必要と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(4) スイカ病害虫防除体系の確立

ア スイカの病害虫対策

(ア) トンネル作型でのスイカ作付け後処理における急性萎凋症状への影響

担当者：川田久美子・坂井侑香里・北山淑一

協力分担：ZM クロッププロテクション(株)

トンネル作型での急性萎凋症状へ対策を確立する目的で、スイカ栽培終了後にトンネル被覆した状態で実施可能な土壌くん煙剤であるカーバムナトリウム塩液剤を用いた古株枯死処理および土壌消毒処理の防除効果を検討した結果、全ての処理区で炭腐病罹病株率が低下したため、古株枯死処理の炭腐病に対する影響は判然としなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) スイカ異常果の原因究明

担当者：川田久美子・坂井侑香里・北山淑一

協力分担：鳥取大学、東伯普及所

収穫したスイカにおいて、異常な打音がする、果肉が正常な状態でない果実（通称、異常果）から分離した細菌を大玉スイカ春作の各作型で接種し、発症状況を調査した結果、全ての作型で腐敗症状が確認された。この腐敗症状はメロン果実内腐敗症と同様の症状であった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

14. 鳥取の野菜主要品目における革新技術による生産安定

(1) 鳥取スイカの生産拡大を目指す次世代栽培技術

ア ハウス・トンネルの安定生産技術の確立

(ア) 作型別の穂木品種の選定

a ハウス作型

担当者：福井咲乃・荒木佑哉

協力分担：なし

ハウス作型において、低温でも着果が安定し果実品質の良い穂木品種の選定を目的に、‘春のだんらん’および

‘祭りばやしRG’を対照として4品種を比較した。2月28日定植、4月17日～24日交配で栽培し、収穫を6月5日から行った。その結果、本年度は4月の気温が低く、花粉発芽率が低い日もあったが、全品種で着果率は100%だった。果実品質では、両試験とも慣行品種より特に優れた品種は認められなかった。しかし、‘春のだんらん’および‘春のだんらんSP’については、病害虫の影響により、十分な果実数を調査できなかったことから再検討の必要がある。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

b 7月どりトンネル作型

担当者：福井咲乃・荒木佑哉

協力分担：なし

7月どりトンネル作型において、日焼け・うるみ果の発生が少ない品種の選定を目的に、‘稀勢丸’、‘倉皇サマー’を対照として4品種を比較した。4月18日定植、5月20日～26日交配で栽培し、収穫を7月4日から行った。その結果、全品種で平均果重が10kgを超え、「特」または「4L」の割合が高く大玉傾向だった。果実品質については、全品種でうるみ果・日焼け果の発生がほとんど見られず、対照品種より優れた品種は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) ‘倉皇サマー(U-027)’の栽培方法の検討

担当者：荒木佑哉・谷口美保

協力分担：なし

今年度から倉吉地区に導入された‘倉皇サマー’は果実の肥大性が強く「特」の階級割合が高いことが課題となっている。そこで、果実の肥大抑制を目的に、整枝方法・株間を変えて栽培を行った。定植は4月18日、収穫を7月4日から行った。その結果、5本整枝3果どり区（株間95cm）において、平均果重は慣行区と同等であったが、「3L」の階級割合が慣行区と比較して20%増加したため、5本整枝3果どりは果実肥大を抑制する可能性が示唆された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) スイカのうどんこ病・炭疽病耐病性系統の特性調査 (健全圃場)

担当者：福田侑記・麻木聖也 (現・倉吉普)

協力分担：なし

6月下旬どりトンネル作型において、品種‘祭ばやしRG’、‘祭ばやし777’のうどんこ病・炭疽病耐病性系統におけるうどんこ病耐病性について検討した。台木は‘祭ばやしRG’および「TM-13」に‘強者’、‘祭ばやし777’および「TM-777」に‘台じょうぶ’を用いて、定植は3月25日に、収穫は6月23～27日に行った。その結果、慣行品種の‘祭ばやしRG’および‘祭ばやし777’と比較して、耐病性系統の「TM-13」および「TM-777」はうどんこ病に高い耐病性が認められた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

イ 高温期のスイカにおける高品質生産

(ア) 遮光技術の検討

a ハウス作型

担当者：荒木佑哉・谷口美保

協力分担：なし

7月はハウス内が高温となるため遮光による果実品質の維持が重要になるが、近年の異常高温により困難となってきた。そこで、遮光開始日の前倒しや遮光率の見直しを目的にハウス内遮光技術について検討を行った。品種は‘稀勢丸’を用いて、定植5月7日、収穫を7月18日に行った。その結果、本年は例年に比べて高温・乾燥となり、本試験場所が大型連棟ハウスであったためハウス内が高温となる状態が続き、いずれの処理区においても日焼け果が多く発生した。そのため、試験場所を変えて再度検討する必要があると考えられた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

b 7月どりトンネル作型

担当者：井上和・福田侑記

協力分担：なし

近年6月下旬～7月が高温傾向にあり、遮光が必要不可欠となっていることから、各遮光資材がスイカの生育、果実品質に及ぼす影響について検討した。遮光資材

(処理期間)は、黒寒冷紗(6/27～収穫)、クレフノン(6/27～収穫)、レディヒート(6/2～収穫)、グッドクール(5/7～収穫)を供試、無処理区も設けて試験を実施した。品種は‘稀勢丸’、‘ガブリコBII’を用いて、定植は5月7日、収穫を7月22日、25日に行った。その結果、遮光資材による日射量と気温上昇の違いはみられたが、日焼け果への影響とコストを考慮すると、慣行の黒寒冷紗よりも優れたものはなかった。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

(2) 黒ボク地域における露地野菜の生産拡大

ア ブロッコリーの高品質多収技術

(ア) 作型別適品種の選定

a 6月どり作型

担当者：谷口美保・井上和

協力分担：なし

ブロッコリーの6月どり作型において収量性と花蕾品質に優れる品種の選定を目的とし、‘SK9-099’および‘令麟’を対照として5品種を供試した。2月20日播種、4月1日定植、および2月28日播種、4月7日定植で栽培し比較した。その結果、いずれの定植日においても‘SK8-128’は対照品種以上に可販率が高く、形状、花蕾品質に優れたことから有望品種と考えられた。ただし収穫日が一斉であるため注意が必要である。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

b 2月どり作型 (令和6年定植)

担当者：井上和・谷口美保

協力分担：なし

2月どり作型で花蕾品質に優れ、安定的に収穫できる品種を選定することを目的として‘ともえ’、‘クリア’、‘むつみ’を対照に10品種を比較した。8月20日播種、9月17日に定植および、8月27日播種、9月24日定植でいずれも128穴トレイを使用した。その結果、‘美緑410’、‘R0-946’は腐敗の発生率が低く、可販率が高かった。また花蕾品質については対照品種と同等であったことから、これら2品種は有望であると考えられた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

イ 白ネギの生産安定

(ア) 10月どり作型における灌水効果の検討

担当者：福井咲乃・福田侑記

協力分担：なし

黒ボク圃場での4月定植の10月どり作型における、夏季乾燥時の灌水処理が、白ネギの生育や収量に与える影響について、「夏扇パワー」、「大地の響き」、「夏柱」、「項羽一本太」で検討した。2月21日播種、4月17日定植で栽培し、収穫を10月21日に行った。株元に灌水チューブを設置し、6月30日から8月23日まで計15回、pFが2.3を超えた日の夕方に1t/aを灌水した。その結果、灌水処理を行うことで、過肥大となり、生存株率の低下を助長する可能性があることから不適であると考えられた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

(イ) 10月どり作型における遅植えと灌水効果の検討

担当者：福井咲乃・福田侑記

協力分担：なし

黒ボク圃場での10月どり作型において、高品質な白ネギを収穫することを目的に、「夏扇パワー」、「大地の響き」、「夏柱」、「項羽一本太」を供試し、遅植えと灌水の効果を検討した。2月21日、3月25日播種、4月17日、5月15日定植で栽培し、収穫を10月21日に行った。株元に灌水チューブを設置し、6月30日から8月23日まで計15回、pFが2.3を超えた日の夕方に3t/3aを灌水した。その結果、5月定植は、品種間差はあるものの、収穫時には4月定植とほぼ同等の生育ならびに収量となり、黒ボク圃場における遅植え10月どり(5月定植)は可能だった。一方、遅植えと灌水の組み合わせによる優れた増収効果は認められなかった。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

(3) 施設利用野菜の高品質多収技術

ア ミニトマトにおける夏季異常高温に対応した栽培技術

(ア) 遮熱資材レディヒートがミニトマトの生育、収

量に及ぼす影響

担当者：井上和・福井咲乃

協力分担：なし

「妻面の開放+循環扇」設置条件下において、寒冷紗とレディヒートとの比較を行い、レディヒートがミニトマトの生育、収量に及ぼす影響について検討を行った。寒冷紗区は40%シルバー寒冷紗を定植から9月23日までハウス天面に被覆した。レディヒート区は6月19日に4倍希釈量でハウス天面にドローン塗布し、収穫終了時まで除去はしなかった。「エコスイート」を7月4日、「サンチェリーピュア」を7月9日に定植し、8月13日から11月20日まで収穫を行った。その結果、レディヒート区は寒冷紗区よりも透過日射量が多く、灌水量も寒冷紗区よりも多くなる傾向がみられた。収量についてはいずれの品種も明らかな差はみられなかった。灌水条件を見直したうえで再度検討が必要と考えられた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

(イ) レディヒート処理条件下での最適な土壌pF管理の検討

担当者：井上和・福井咲乃

協力分担：なし

「妻面の開放+循環扇」とレディヒートを組み合わせた栽培条件下での、土壌pF灌水管理がミニトマトの生育、収量に及ぼす影響について「サンチェリーピュア」、「エコスイート」で検討を行った。台木を5月13日、穂木を5月16日播種、6月9日に接ぎ木、「エコスイート」を7月4日、「サンチェリーピュア」を7月9日定植で栽培した。8月13日から11月20日まで収穫を行った。レディヒートはドローンを用いて6月19日に4倍希釈量で塗布し、除去は行わなかった。pF管理を8月13日から開始し、pF1.9、2.1、2.3の3処理区設定した。両品種においてもpFで灌水処理を変えたことによる収量の差は判然としなかった。すべての処理区において1回あたりの灌水量が多かったことから、1回あたりの灌水量を減らした条件下で再度検討が必要と考えられた。

(本試験成績掲載印刷物：なし)

(ウ) 遮熱被覆資材「青天張」がミニトマトの生

育、収量に及ぼす影響

担当者：福田侑記・麻木聖也（現・倉吉普）

協力分担：なし

ハウス内の昇温抑制、光合成に有効な波長領域を透過する遮熱被覆資材「青天張」が、ミニトマトの生育・収量に及ぼす影響について検討した。小型ハウス（4×9×2.7m）において、青天張区、レディヒート区、寒冷紗区および無処理区を設けて試験を実施した。レディヒート区は定植前のハウスに4倍希釈液を動噴で散布塗布した。青天張区は可視光線遮光率22%のBタイプ、寒冷紗区は40%シルバー寒冷紗を用い、定植～10月7日まで被覆した。品種は「サンチェリーピュア」、定植は7月30日、2本仕立て栽培を行った。その結果、「青天張」は「レディヒート」と同等の日射量を確保できるものの、ハウス内の昇温抑制効果が「レディヒート」と比較し低く、生育および収穫物の肥大性に劣った。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

（エ）有望品種の検索

担当者：福井咲乃・井上和

協力分担：なし

7月上旬定植の抑制作型において、耐暑性が強く、多収で高品質な品種の検索を目的に、「サンチェリーピュア」を対照として「サンチェリーピュアプラス」、「サマー千果」を比較した。台木を5月13日、穂木を5月16日に播種、6月9日に接ぎ木、7月9日定植で栽培した。7月23日からトマトトーン（150倍希釈）を処理、8月21日から11月20日まで収穫を行った。その結果、いずれの品種も慣行品種に比べて可収収量が約1割少なかった。しかし、「サンチェリーピュアプラス」は果皮硬度が高く、裂果やつやなし果の発生が少なかったこと、「サマー千果」は9月下旬以降の収量の高低差が小さかったことから再検討の必要がある。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

（4）鳥取県開発イチゴ品種の高品質多収技術

ア 新品種「堅しろう」の栽培技術

（ア）イチゴ苗の剪葉処理が生育、収量に及ぼす影響

担当者：井上和・谷口美保

協力分担：なし

イチゴ苗における剪葉処理が、「とっておき」、「堅しろう」における定植後の生育、収量および果実品質に与える影響について検討した。7月中に受けた苗について、8月5日に剪葉処理を行い、ランナーは切り離さず展開葉をすべて切り離した。定植を9月18日に行った。その結果、苗の剪葉処理の有無による定植後の生育、収量、果実品質への差は認められなかった。剪葉処理を行うことによる苗管理のしやすさもあったことから、育苗期に剪葉をおこなう方法は有用であると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

（イ）電照による草勢及び収量性への影響

担当者：福田侑記・麻木聖也（現・倉吉普）

協力分担：なし

「とっておき」は厳寒期の草勢低下による低収量が問題となっている。そこで、電照の日長延長による草勢維持効果を活用し、春先の収量への影響を検討した。併せて、新品種「堅しろう」への電照効果も確認した。定植を9月24日に行い、電照は白熱電球を用い11月6日から2月21日まで、23時から翌1時（2時間）に照射した。その結果、両品種とも夜間2時間電照照射することによって厳寒期の草勢維持効果はみられたものの、収量に対する顕著な差は認められなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

（ウ）クラウン加温による草勢及び収量性への影響

担当者：福田侑記・麻木聖也（現・倉吉普）

協力分担：なし

「とっておき」は厳寒期の草勢低下による低収量が問題となっている。そこで、イチゴのクラウン部加温による草勢維持効果を活用し、春先の収量への影響を検討した。併せて、新品種「堅しろう」へのクラウン部加温効果も確認した。定植を9月24日に行い、加温は電熱線を用い11月11日から3月24日まで、設定温度21℃でクラウン部を加温した。その結果、両品種ともクラウン加温による厳寒期の草勢維持効果が草高に対し認められ、

収量も増加した。一方、‘堅しろう’は果梗徒長が生じたことによる収穫性の低下もみられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(エ) 受粉方法の違いが果実品質および収量に及ぼす影響

担当者：井上和・谷口美保

協力分担：なし

‘堅しろう’は冬期に先青果の発生が認められており、これは受粉が影響していると考えられている。そこで、‘堅しろう’の受粉特性を明らかにするため、受粉方法の違いが果実品質及び収量に及ぼす影響について、‘とっておき’との比較を行った。9月18日に定植を行った。11月11日から交配を開始し、‘ハエ’（商品名ビーフライを使用）、‘手交配’（週3回筆で交配）、‘ブロワー’（週3回ブロワーで送風）の3処理区設定した。‘とっておき’は花粉発芽率が高く、ブロワーのみでハエと同等に交配できた。‘堅しろう’は‘とっておき’よりも花粉発芽率が低く、ブロワーのみで交配を行うことは難しかった。‘堅しろう’の奇形果を減らす対策として‘とっておき’等の花粉量の多い品種と混植すること、ブロワーを用いて先青果が発生しやすい頂果の交配を補助することが考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(5) みどりの食料システム戦略に対応した栽培技術

ア 生分解性不織布ポットの利用

(ア) スイカ

a スイカ栽培における生分解性不織布ポットの利用（トンネル作）

担当者：福田侑記・麻木聖也（現・倉吉普）

協力分担：なし

環境負荷の低減に向けた生産技術開発を目的とし、廃プラスチック削減の一助となる生分解性の不織布ポット（商品名「Jiffy-7C」50×60mm）を育苗ポットとして供試し、定植4月4日、収穫6月27日～7月3日で露地トンネル作型のスイカを栽培した。その結果、生分解性不織布ポットは慣行ポリポットと比較し収穫果実の大きさ、形状及び果実糖度に差が認められなかったことから実用

性があると考えられた。無摘芯栽培についても摘芯栽培と同様の結果となり、利用可能であると考えられた。また、育苗日数が14日であると初期生育が小さく、交配開始日に遅れが生じたことから、育苗期間の短縮は1週間程度が適当であると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) メロン

a 抑制メロン栽培における生分解性不織布ポットの利用

担当者：荒木佑哉・谷口美保

協力分担：なし

農林水産省の「みどりの食料システム戦略」（令和3年5月策定）を踏まえ、環境負荷の低減に向けた生産技術開発を目的とし、廃プラスチック削減の一助となる生分解性の不織布ポット（商品名「Jiffy-7C」50×60mm）を育苗ポットとして供試し、定植8月8日、収穫11月4日で抑制メロンを栽培した。その結果、育苗時の培地温度が慣行ポリポットと比較して低くなり、生育が旺盛となった。本圃においては同等に生育し、収穫物はポリポットと比較して果重が有意に増加し、ネットの発生も均一となった。一方で、糖度はポリポットと比較して有意に低くなったが、出荷基準を大きく上回っているため実用性があると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 鶏ふんを利用した化学肥料の削減

(ア) 白ネギ栽培における鶏ふん利用の検討（12月どり作型）

担当者：福田侑記・麻木聖也（現・倉吉普）

協力分担：なし

農林水産省の「みどりの食料システム戦略」（令和3年5月策定）を踏まえ、慣行の施肥体系に対して、N3割鶏ふん代替区及び、N5割鶏ふん代替区を設けて白ネギを栽培した。播種3月25日、定植5月13日、収穫12月16日とした。その結果、いずれの鶏ふん施用区とも慣行区と比較して生育に大きな差は認められず、収量は同等であった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

15. 気候・風土に適応した砂丘ラッキョウ・ナガイモの安定生産技術の確立

(1) ラッキョウにおける安定生産技術の確立

ア 高収量を得られる施肥技術の確立

(ア) 秋季重点施肥による収量の検討

担当者：藤原洋大・鳥飼周平・石河利彦

協力分担：なし

収量向上を目的に、9、10月重点型の施肥体系において発芽期に芽出し肥を与えたところ、収穫時の鱗茎重が大きくなることから収量性の向上が期待できると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) 施肥時期による収量性への影響の検討(予備試験)

担当者：藤原洋大・鳥飼周平・石河利彦

協力分担：なし

生育に対する施肥時期の違いを見るため、10月から年内までの追肥時期を遅らせた区と慣行区を比較したところ、本年度の試験では収量および白色疫病への影響は少ないと考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ 春肥施用が灰色カビ病・あめ色症状の発生に及ぼす影響

担当者：鳥飼周平・藤原洋大・石河利彦

協力分担：JA鳥取中央、東伯農業改良普及所、環境研究室

春肥施用によるラッキョウ灰色かび病、あめ色症状の発生への影響を調査した結果、春肥を施用してもラッキョウ灰色かび病の発生はなかった。また、あめ色症状は、春肥を施用しても現地慣行区と発生に差はなく、苦土石灰を施用することで発生割合が低下した。収量については、鱗茎重に差がないものの春肥区の換算収量は現地慣行区に対して1割多く、春肥苦土区は現地慣行と同等であった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ウ 作業省力化に向けた除草体系の検討

担当者：藤原洋大・鳥飼周平・石河利彦

協力分担：なし

除草作業の省力化を目的に、ロロックスおよびバサグラン液剤を使用した除草体系は2月、5月において雑草密度を低く抑えていることから除草作業の省力化が期待できるが、収穫物の鱗茎乾物率はやや低く、ロロックスを10月および12月に、バサグラン液剤を3月に散布した除草体系は全体的に小玉になる傾向であった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(2) ‘ねばりっ娘’専用栽培技術の確立

ア 縦割れ症発生原因究明と低減技術の確立

(ア) pH低下処理が縦割れ症に及ぼす影響(現地試験)

担当者：石河利彦・藤原洋大・鳥飼周平

協力分担：東伯普及所

縦割れ症発生の軽減を目的に硫黄華処理を行ったところ、土壌 pH は一時的に酸性に低下する傾向がみられたが、持続しなかった。また、縦割れ症の発生軽減効果は判然としなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) ホウ素配合資材の施用効果(現地試験)

担当者：藤原洋大・鳥飼周平・石河利彦

協力分担：なし

縦割れ症軽減目的にホウ素配合肥料FTEを処理したところ、FTEを施用した区の芋のホウ素含有量が多くなったことから、芋がホウ素を吸収していたと考えられた。また、縦割れ症が発生した芋の方が、発生していない芋よりホウ素含有量が多い傾向が見られたことから、縦割れ症の原因がホウ素欠乏によるものではないという可能性が考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ 夏季の高温対策技術の検討

担当者：藤原洋大・鳥飼周平・石河利彦

協力分担：鳥取大学

収量性の向上を目的として、梅雨明け後から8月下旬

までのかん水量の総量を増加させると芋重が増加し、黒陥没症および褐変症が減少する傾向が見られた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ウ ‘ねばりっ娘’ 専用栽培指針の作成

(ア) ‘ねばりっ娘’ の生育特性調査

担当者：鳥飼周平・藤原洋大・石河利彦

協力分担：なし

‘ねばりっ娘’ の生育特性を改めて確認するために定期掘り取り調査を行った結果、令和7年産の‘ねばりっ娘’ は地上部が8月上旬に完成し、その後10月中旬から急激に黄化し、枯れ込んだ。また、芋長は10月まで伸長し芋径は6～7月に肥大していた。芋重は芋長の伸長に合わせて10月まで増加した。これを10年前の生育状況と比較した場合、芋径の肥大時期がわずかに前進化し、芋長は遅くまで伸長していた。最終的な芋長は長く、芋径は細くなっており芋重は同等であった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 堆肥による収量への影響

担当者：鳥飼周平・藤原洋大・石河利彦

協力分担：なし

‘ねばりっ娘’ の増収を目的に堆肥3t/10aの施用を検討した結果、堆肥施用によって地上部の生育は旺盛になったものの、芋重の増加への有意な効果は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) ‘ねばりっ娘’ の土壌適応性調査（予備試験）

担当者：石河利彦・藤原洋大・鳥飼周平

協力分担：なし

芋地と芋地外の砂土を用いて試験区を設置し、品質を比較したところ‘ねばりっ娘’ および長芋で大きさ、形状に大きな差はみられなかったが、芋地区で‘ねばりっ娘’ に黒陥没症および褐変症が多く、長芋には縦割れ症がみられた。品質には粒径組成以外の要因も影響していると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(エ) 種芋の大きさについて

担当者：鳥飼周平・藤原洋大・石河利彦

協力分担：なし

安定的な収量確保のため種芋の大きさを変え、収量、品質を改めて調査した結果、種芋に子芋を用いる場合は、種芋重が重すぎると分岐や2本芋が増加し、2L率が低くなることから50～100gが適していると考えられた。また、頂芽を用いる場合は1本芋重が重く、2L以上割合が高くなり、なおかつ頂芽切り取り時の出荷ロスが少ない種芋重50gが適していると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

エ 基肥削減の影響

担当者：鳥飼周平・藤原洋大・石河利彦

協力分担：なし

肥料経費削減のために基肥削減を検討した結果、種芋重50～100gを使用した場合において育期間中の地上部の茂りが弱くなり、7月時点では芋が小さい傾向にあったが、その後の芋の生育は同等程度であり、基肥を削減しても最終的な芋重は慣行区と同等であったことから基肥は削減可能であると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(3) ナガイモ黒陥没症対策技術の確立

ア 発生原因の究明と低減技術の確立

(ア) pH調整ほ場の経過観察試験（現地試験）

担当者：藤原洋大・鳥飼周平・石河利彦

協力分担：鳥取大学

黒陥没症および褐変症の発生率の軽減を目的に、炭酸カルシウム施用を行い、土壌pHを7.5程度に4年間維持したほ場において、pH調整を中止した1年後に同ほ場で栽培を行ったところ、黒陥没および褐変症の発生率は低かった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 粒剤散布量の検討（現地試験）

担当者：藤原洋大・鳥飼周平・石河利彦

協力分担：鳥取大学

黒陥没症軽減目的にユニフォーム粒剤を処理したところ、本年の調査では処理による黒陥没症の軽減効果が確

認された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(4) ‘鳥取 1u61’ の安定生産技術の確立

ア 出芽率向上を目指した早植えの検討 (予備試験)

担当者：藤原洋大・鳥飼周平・石河利彦

協力分担：なし

‘鳥取 1u61’ の出芽率の向上を目的に、種芋を慣行より早植えすることで発芽開始日が早くなり、出芽率が高くなったが、6割に届かず現地の期待に応える結果とはならなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(5) 環境に配慮した施肥法の開発

ア ラッキョウにおけるリン酸施用の削減

担当者：石河利彦・藤原洋大・鳥飼周平

協力分担：福部らつきょう生産部、JA 鳥取いなば

リン酸の削減を目的にリン酸の施用量を慣行と比べて1/2 削減および全量削減した区を設けて試験を行ったところ、慣行区に比べてリン酸1/2 削減区は差がみられなかったが、リン酸無施用区では葉重が軽く、葉数が少なく、鱗茎重が小さくなり、リン酸を無施用で継続して栽培すると収量が少なくなる可能性が示唆された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

16. 地球温暖化に対応した白ネギ安定生産技術と弓浜特産野菜の栽培改善

(1) ネギ軟腐病・萎凋病の発生を軽減する栽培技術の確立

ア ほ場整地による畝間滞水解消とネギ生育

(ア) 弓浜湿地におけるネギ湿害の実態調査まとめ

担当者：井上浩・吹野颯音

協力分担：なし

地下水位とネギ湿害の関係を明らかにするため、4年間既耕地で調査を行った結果、大雨後に地下水位が地表面から-40cm 以上になった時、ネギ茎盤近傍の土壌pF1.3 未満の過湿が2日以上継続した時に湿害が起こることが明らかになった。また、湿害被害は根傷みによる

生育低下であり、ネギが大きな状態だと腐敗・欠株の発生が助長され、盛夏期の重度な畝崩れ・畝修復作業を行うと甚大な被害につながることも明らかになった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 乾燥畑での夏期適湿管理によるネギの安定生産技術

(ア) 10月どり短縮栽培における適湿管理の効果

担当者：久米千晴・井上浩・吹野颯音

協力分担：なし

10月どり作型の増収及び高品質化を目的に、栽培期間を1か月短縮して栽培する方法について検証した。その結果、4月定植区に対して5月定植区は、7月下旬まで葉鞘径が細い状態で生育したが、散水と施肥を行うことで夏期の生育が促進されて多収となり、襟部の締まりが顕著に向上した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 10月どり短縮栽培における適品種の選定

担当者：久米千晴・井上浩・吹野颯音

協力分担：なし

5月下旬に定植し10月上旬に収穫する検証中の作型において、夏期に生育旺盛な品種を検討した。供試した5品種のいずれも、生育停滞することなく上手に夏越しでき、‘大地の響き’ が最も多収であった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ウ 高温期の肥培管理技術

(ア) 9月どりでの土壌改良質資材の併用効果

担当者：吹野颯音・井上浩

協力分担：野菜研究室 (土肥)

9月どりネギの増収を目的として、腐植酸と各種土壌改良質資材の効果について検討した結果、腐植酸を処理することで初期生育が促進され収量が向上し、腐植酸と土改材の併用でさらに増収した。また土改材処理でネギが硬くなる傾向がみられ、中でも水溶性カルシウムは処理後からネギが硬い状態で保たれた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

エ ネギ軟腐病・萎凋病防除技術の確立

(ア) 品種およびネギ含水率の違いが葉トロケ症に及ぼす影響

担当者：吹野颯音・井上浩

協力分担：なし

各品種の水分吸収の差異、含水率と葉トロケ発症率の関係を明らかにすることを目的に、8月どりで散水の有無を設けて8品種を比較した。散水で含水率が上昇しなかった4品種、散水で含水率が上昇したが高くない品種は、葉トロケ発症が少ない傾向であった。散水なしでも含水率が高く、散水で更に上昇した3品種は葉トロケが多く発症し、葉トロケ症は含水率92%後半が発症の目安であると推察された。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) ダゾメット微粒剤の増量処理（8月どり）

担当者：井上浩・吹野颯音

協力分担：(株) アグロカネショウ

8月どりの連作障害対策を目的に、ダゾメット微粒剤冬期無被覆処理の処理量と費用対効果について検討した。従来の30kgに比べ、60kgは生存株率が有意に高く土壌消毒効果が高まったが、経営試算では増益せず、30kgが適量だと考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(ウ) ダゾメット微粒剤の増量処理（9月どり）

担当者：井上浩・吹野颯音

協力分担：(株) アグロカネショウ

9月どりの連作障害対策を目的に、ダゾメット微粒剤冬期無被覆処理の処理量と費用対効果について検討した。従来の30kgに比べ、60kgは土壌病害虫に対する土壌消毒効果が高く、費用対効果が認められた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(エ) ダゾメット微粒剤処理後のバチルス属菌資材施用

担当者：井上浩・吹野颯音

協力分担：日本農薬株式会社

9月どりの収量向上を目的に、ダゾメット微粒剤30kg処理後のBS資材（バチルス属菌）の施用効果について検

討した。BS資材1,000倍希釈、1L/m²をネギ定植後に植溝灌注することで、根張りが良くなり、生育収量が増加する傾向だった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(オ) 定植時期の変更による秋冬作型安定生産技術の探索

担当者：久米千晴・井上浩・吹野颯音

協力分担：なし

梅雨の湿害を避けることを目的に、梅雨明け後の7月定植について検討した。本年は梅雨に大雨がなく、慣行の5月定植‘項羽一本太’は12月上旬に収穫できた。7月定植‘項羽一本太’は12月下旬に収穫でき、作期短縮の可能性がみられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(2) 白ネギ周年栽培体系の強化

ア 作型別適品種の選定

(ア) 6月どり（トンネル）

担当者：久米千晴・吹野颯音・井上浩

協力分担：なし

暖冬を考慮し生育が進んだ場合でも抽台発生が少ない品種選定を目的に、5品種を11月中旬定植して比較した結果、‘白翠’は対照品種と同程度に抽台発生率が高かった。‘羽生一本太’‘陽春の宴’は抽台発生率が低かったが、葉鞘の充実が遅く、6月上旬収穫には適さなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) 6月どり（無トンネル）

担当者：吹野颯音・久米千晴

協力分担：なし

12月上旬定植6月収穫の無トンネル作型での抽台と萎凋病が少ない多収品種を選定するため、5品種を供試した。‘白翠’は萎凋病の発生が見られず、対照品種‘初夏一文字’よりも太りが良く多収であったため、本作型における有望品種であると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ 生産者ができる春ネギ抽台予測手法の開発

担当者：久米千晴・井上浩・吹野颯音

協力分担：なし

生産者が春ネギの抽台時期を把握するための手法開発を目的に、昨年作成された展葉枚数と内葉枚数に基づく計算式を用いて、3品種で抽台予測を行った。前年と本年は気象条件が異なったことで同じ品種でも展葉スピードが異なり、品種間での差異もみられたことから、抽台予測はできなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

ウ 各種病害虫等に対する薬剤防除体系

(ア) 除草剤ロックス水和剤の処理とネギ薬害

担当者：井上浩

協力分担：丸和バイオケミカル

ロックス水和剤の薬害事例を整理するため、他薬剤との混用の有無、噴口の種類、全面処理と畝間処理の違いについて調査した。混用の有無に係わらず除草剤噴口で全面処理すると、葉身に黄化症状が生じ対無処理比80～90程度に生育が抑制された。霧状噴口では強い薬害が生じた。除草剤噴口での畝間処理すると薬害はみられなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 除草剤ロックス水和剤の薬害と畝表面に露出した根の関係

担当者：井上浩

協力分担：丸和バイオケミカル

ロックス水和剤が表面に露出した根に付着すると薬害が生じるかを確認するため、人為的に根を露出させ、当日と7日後に薬液を処理した。当日の処理では薬害が生じたが、7日後の枯死した根への処理では薬害がでなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) ネギハモグリバエに対する殺虫剤(粒剤)の効果

担当者：久米千晴・井上浩・吹野颯音

協力分担：なし

ネギハモグリバエによる被害を防ぐため、生産現場で利用されている粒剤の防除効果について調査した。その結果、9月下旬に処理を行った場合のアルバリン粒剤、ダントツ粒剤は1か月程度効果が持続し、10月に発生が増加するネギハモグリバエに対する予防剤として有望と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

エ 緑肥・輪作作物を組み込んだ土壌環境の改善

(ア) イモ類輪作後の白ネギ生育収量まとめ

担当者：井上浩

協力分担：なし

連作障害対策を目的にカンショ、サトイモとネギとの輪作効果について検討した結果、カンショやサトイモを2年輪作した後のネギ1年目は、土壌病害の発生が少なく多収となった。ネギ2年目は、連作区に比べると軽度だが9月に根傷みが確認された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(3) 弓浜特産野菜の栽培改善

ア ニンジン優良品種の選定と栽培技術の検討

(ア) 秋冬どり(8月中旬播種)

担当者：吹野颯音・久米千晴

協力分担：なし

8月中旬播種11月収穫における優良品種を選定するため7品種を供試した。その結果、高温や栽培上の問題により岐根が多発したため、どの品種が有望かは判断しなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 越年どり(9月上旬播種)

担当者：吹野颯音・久米千晴

協力分担：なし

9月上旬播種越年どり作型における優良品種を選定するため4品種を供試した。その結果、'FYC-564'は草勢が優れ、低温時のロゼットも少なく、多収で品質も良かった。'FYC-033'は草勢、肥大性に優れ、ロゼットの発生も少ないが、根長が伸びすぎる傾向であった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ カンショ ‘べにはるか’ の栽培技術と早期出荷用 良食味品種の検索

(ア) 良食味品種の検索 (早掘り)

担当者：久米千晴・井上浩・吹野颯音

協力分担：なし

早掘り作型において、収量が多く食味の良い品種を検索するため、4品種を供試した。植付け時期が異なる試験であったが、‘あまはづき’‘べにひなた’は収量や品質が良い傾向が見られた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 良食味品種の検索 (普通掘り)

担当者：久米千晴・井上浩・吹野颯音

協力分担：なし

消費ニーズに対応するため、肉質が粉質である新品種‘栗かぐや’の収量性、食味について検討した。その結果、‘べにはるか’に比べて上物率が高かったが、収量はやや少なかった。‘栗かぐや’は食味が良く、粉質の品種として有望と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) コガネムシ薬剤防除試験

担当者：吹野颯音・久米千晴

協力分担：なし

カンショのコガネムシ食害を軽減することを目的に薬剤の効果比較および生育期処理の検討を行った。その結果、畝立て時にダントツ粒剤、生育期にダイアジノンSLゾルまたはダイアジノン粒剤5を処理することでコガネムシ食害を5～8%に抑えることができた。なお、ダイアジノンSLゾルの生育期散布はナカジロシタバで登録されており、コガネムシ類に登録がないため注意が必要である。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

17. 山間地園芸作物の安定栽培技術の確立

(1) 夏秋トマトの高品質安定多収栽培技術の確立

ア ‘りんか409’の高品質安定多収技術の確立

(ア) 遮熱塗布剤と仕立て方法が収量品質へ及ぼす影

響

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

遮熱処理による収量品質の向上を目的として、遮熱塗布剤と遮熱POを異なる誘引方法で処理した。その結果、塗布処理は、いずれの誘引方法でも放射状裂果は低下する傾向だったが、その影響は小さく、輪状裂果や空洞果の増加により秀品率は低下した。これは、実施したハウスは全て風通しの良い雨よけハウスであり、遮熱効果が発揮しにくかったためと推察された。また、遮熱POはいずれの誘引方法でも放射状裂果、輪状裂果が増加する悪影響がみとめられ、可販果率が低下したため、遮熱強度の高い資材への変更等の検討を要した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 施肥コスト削減

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

施肥コストの削減を目的として、基肥にBMスペシャル有機、追肥にくみあい液肥2号を代替肥料とした試験を行った。その結果、品質、収量への悪影響は認められず、実用性の可能性はあると考えられた。ただし、追肥後期にはカリ成分が減少したため、実用に当たっては土壌分析を行いながら、施肥体系の長期的な影響について考慮する必要があると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) 温暖化に対応した作期拡大の検討

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

作期拡大による増収を目的として、内張なしのハウスで定植を約10日前進化させ、更に収穫終了を約20日延長する検討を行った。その結果、収穫段が3段分増加し、3.6t/10a増収することが示された。ただし、雨よけハウスに妻面を増設して作期拡大する場合は、所得向上の点から密植にする必要性が示された。また、誘引方法の違いによる収量への影響に有意な差はなかったが、斜め誘引は拡大作型にすることで大玉比率が上昇する傾向があ

り、その要因として吊り下げ誘引に比べ、摘葉ストレスや下ろしストレスが少ないことが推察された。一方、収穫終盤の作業性は吊り下げ誘引が優れており、斜め誘引から吊り下げ誘引に変更して作期拡大を行う際は、摘葉や吊り下げ時のストレスを少なくすることが必要と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 耐裂果性品種の特性調査

(ア) pF 指標のかん水が収量へ与える影響

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

耐裂果性品種‘麗月’の収量増を目的として pF 基準によるかん水管理をおこなった結果、pF 値を基準としたかん水で両品種とも有意に増収したが、平均1果重はいずれの品種も3段前後をピークに減少していった。また、pF 基準かん水は、6月中旬から7月中旬までの水分の変動幅が大きく、8月中旬から9月上旬は節水量が不十分だったため再検討を要した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) ‘麗月’の誘引方法の影響

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

‘麗月’の増収を目的として誘引方法の比較を行った結果、‘麗月’を吊り下げ誘引にしても、収量に有意差はなく、作業性やコストに問題がなければ斜め誘引のまま問題ないと考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(ウ) ‘麗月’の増肥の影響

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

‘麗月’の収量向上を目的として増肥処理を行った結果、‘麗月’を増肥することで、慣行施肥の‘りんか409’と同等の収量となったが、増肥をした‘りんか409’の収量を超えることはなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(エ) バイオスティミュラント資材の効果確認

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

高温期の収量品質向上を目的として、バイオスティミュラント資材「炎天マスター」の効果確認を行った結果、本年は処理開始が遅く、‘りんか409’と‘TIM-177’の両品種に対する炎天マスターによる収量および品質への影響が判然とせず、再検討を要した。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(2) 中山間地における白ネギの安定・多収栽培技術の確立

ア 7月どり作型に適した栽培方法の検討

(ア) 植え溝の深さと被覆資材の有無が生育に及ぼす影響

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

中山間地7月どり作型に適した栽培方法の確立を目的に、植え溝の深さと被覆資材の有無が生育に及ぼす影響について検討した。その結果、植え溝の深さによる地温差が生育や収量に与える影響は判然としなかったが、植え溝15cm区は土壌pF値が他の区より湿潤傾向であり、最も2L率が高く収量性に優れていた。ただし、植え溝の深さと土壌pF値に間に一定の傾向は見られなかった。

また、定植後に不織布で被覆し地温を上昇させることにより生育前半の葉鞘径の太さを向上させたが、収量を向上させる効果は認められなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 作型別適品種の選定

(ア) 8月どり

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

中山間地8月どり作型における収量性と在圃性に優れた品種の選定を目的に品種比較を行った結果、‘夏柱’、‘MKS-N72’、‘MKS-N74’は、対照品種より収量性と在圃性に優れていたため有望品種と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) 9月どり

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

中山間地9月どり作型における収量性と在圃性に優れた品種の選定を目的に品種比較を行った結果、‘夏柱’は盛夏期の生存株率が高く対照品種と同等程度の収量性があり、対照品種よりも襟部の締まりが良く在圃性に優れたため有望品種であると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(ウ) 10月どり

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

中山間地 10月どり作型において夏越し性が良く収量性に優れた品種の選定を目的に品種比較を行った結果、‘項羽一本太’、‘冬の雫’は草丈が短く小葉であるため強風被害を受けにくく、対照品種‘源翠’と同等の収量性があるため有望品種と考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

ウ 高品質多収技術の検討

(ア) 盛夏期の頭上散水が生育に及ぼす影響

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：日野農業改良普及所

中山間地9月どり（黒ぼく土）における夏期の頭上散水による収量増加を目的に効果確認した結果、pF2.4を基準とした夕方1時間の頭上散水は、茎盤部付近の土壌pF、地温を低下させ、腐敗株の増加といった悪影響もなかったが、収量は増加させられなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) 鶏ふん利用による化成肥料の使用量低減

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：野菜研究室（土肥）

化成肥料の低減を目的に、醗酵鶏ふんペレットを代替肥料として基肥施用した。その結果、窒素分で3割代替（360kg/10a 施用）した場合、対照区と比べて同等以上の生育および収量性を示した。また、化成肥料の3割を同様に代替し、鶏ふんペレットの施用量をさらに増やすことで（600kg/10a 施用）対照区より窒素投下量は増え

るが生育に悪影響はなく、収量を大きく向上させられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(ウ) 竹チップ堆肥の利用が生育に及ぼす影響（予備試験）

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

日南町の合同会社で試作された竹チップ堆肥を施用し栽培した結果、土壌化学性は白ネギの適正值から大幅に外れることはなく、生育収量に大きな問題はなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(3) ブロッコリーの安定栽培技術の確立

ア 作型別適品種の選定

(ア) 6月どり

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

中山間地における6月上旬どりと6月下旬どりに適した品種の選定を目的に品種比較を行った結果、いずれの作型においても‘SK8-128’は対照品種より花蕾品質が優れていた。茎が短いため収穫作業性は優れないものの、花蕾品質が良好であるため有望品種と考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(イ) 夏秋どり

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

中山間地における9月下旬どり、10月どりに適した品種の選定を目的に品種比較を行った結果、‘アーリーキャノン’が可販率や花蕾品質に優れたため有望品種であると考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

(4) 夏秋ピーマンの高品質安定多収栽培技術の確立

ア ピーマン斑点病に対する防除体系の検討

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

ピーマン斑点病の防除薬剤について、防除効果と果実の汚れを検討し、防除体系の改良を目的として試験を行った。その結果、銅ペースト水和剤の防除効果は高い

が汚れや薬害が他の剤に比べて多かった。そのため、収穫期間中は比較的汚れが少なく、一定の防除効果も見込めるアフェットフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤、シグナムWDG、コサイド3000を取り入れた体系の検討が必要と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

イ 畝内施肥による施肥コスト削減

担当者：小谷和宏・大豊航史

協力分担：なし

施肥コストの削減を目的として、リン酸肥料を削減し、畝内施肥とロング肥料の畝内施肥を行ったところ、いずれも慣行と同等の収量が得られ、コスト削減が可能だった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(5) 新規品目の栽培技術確立

ア 中山間地における露地花き品目の栽培適性

(ア) ‘鳥鱗1号’の繁殖方法別の生育(前年収穫後の母球定植)

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

準高冷地における小球ユリ‘鳥鱗1号’の栽培適性を確認する目的で前年収穫後の母球を定植し露地栽培した結果、20g以上(M、L、2L)の母球であれば一定品質以上の切花を採ることができると考えられ、40g以上で最も生育が優れた。また、20g未満の球根は草丈の短い切花になるが、栽培後の球根は肥大するため、次作において良い品質の切花を得ることができる可能性も考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(イ) ‘鳥鱗1号’の繁殖方法別の生育(鱗片挿し)

担当者：大豊航史・小谷和宏

協力分担：なし

準高冷地における小球ユリ‘鳥鱗1号’の露地秋冬作型の栽培適性を確認する目的で、鱗片繁殖苗で栽培した。また、育苗期間の加温時期についてもあわせて検討した。その結果、鱗片挿し後の短期加温育苗は生育に問題はな

かったが、抽台率が低く草丈も低かった。長期加温育苗は短期加温育苗に比べて苗の生育が劣り、定植後も生育が優れなかった。したがって、育苗管理において加温は3月上旬までにとどめ、その上で液肥散布回数を増やし、苗を充実させるのが適すると考えられた。また、抽台率を向上させる技術を構築する必要があると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

18. 鳥取の花き主要品目における安定・高品質生産技術の確立

(1) 切り花(ストック)

ア 生育促進効果が高いEOD光照射と品質向上法の検討

(ア) 効果の高い花芽分化および開花促進手法の検討

担当者：松崎弘佑・神庭涼子

協力分担：なし

高温期におけるストックの早期出荷には、EOD-FR終夜照射の開花促進効果が高く品質低下も少ないことから有用と考えられたが、茎の硬さが低下する傾向があり、かん水量等の栽培管理に注意が必要と考えられた。またビビフルフロアブル散布とEOD-FR6時間照射の併用が最も開花促進効果が高く、切り上がりが早くなることから有用と考えられたが、奇形花の発生割合が高く、また茎の硬さが低下する傾向があり、注意が必要と考えられた。加えてビビフルフロアブルの新たな使用方法の可能性が示唆された。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(イ) 早生系品種の分化促進手法の検討

担当者：松崎弘佑・神庭涼子

協力分担：なし

早生品種でEOD-FR照射を行うことで、高温期においても早期出荷が可能と明らかになった。かん水量の調整により、更なる切り花の伸長も可能と考えられるが、それに伴う花穂の間延びや、茎の硬さの低下等の品質低下が発生する可能性があり、導入の際には注意が必要と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(ウ) PCa 処理と高温が奇形花発生に及ぼす影響

担当者：神庭涼子・松崎弘佑

協力分担：なし

PCa (プロヘキサジオンカルシウム、商品名ビビフルフロアブル) 処理を行うストック栽培において、処理時期の高温が奇形花発生に及ぼす影響について検討した。処理時期が平年より高温であり、高温処理なしでも奇形花が多発したため、本年度は高温処理による奇形花の増加はみられず、PCa 処理後に 35℃以上の高温に遭遇すると奇形花が増加する可能性が示唆された。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(エ) オールダブル試験品種の検討

担当者：神庭涼子・松崎弘佑

協力分担：東伯普及所、タキイ種苗(株)

‘ホワイトアイアン’を対照品種として、スタンダード系のオールダブル白色品種において切り花品質の検討を行った。‘ES1130’は切り花のボリュームが小さく、現地での高温期収穫で収穫後の花卉傷みが多発し、有望品種ではないと考えられた。‘ES1131’は‘ホワイトアイアン’よりも花穂密度が低く、開花時期が遅いため8月中の播種作型での栽培は適さないと考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(オ) 新しい試験品種の検討

担当者：神庭涼子・松崎弘佑

協力分担：なし

育苗時に 5℃の低温処理を行うことで、鑑別が容易になる特性を持つ新しい試験品種について特性の検討を行った。試験品種は子葉の葉色により鑑別が容易だったが、低温期に‘ホワイトアイアン’と比べて葉色が大幅に淡くなり、葉色の特性を踏まえた生産および販売が必要になると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

イ 遮光と FR 照射による開花調節

(ア) 遮光による開花調節 (スタンダード品種)

担当者：神庭涼子・松崎弘佑

協力分担：なし

8月後半播種作型において、発蕾後の遮光による開花抑制効果が示され、有色品種でも花卉着色への影響はみられなかったが、花穂密度が低下する傾向がみられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(イ) 遮光による開花調節 (スプレー品種) (令和6年度)

担当者：神庭涼子・松崎弘佑

協力分担：なし

8月中下旬播種作型において遮光試験を行った結果、発蕾後遮光による開花抑制効果が大きいことが示唆され、有色品種においても花卉着色への影響はみられなかった。一方で摘芯後遮光による開花抑制効果については判然としなかった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(ウ) 遮光による開花調節 (スプレー品種) (令和7年度)

担当者：神庭涼子・松崎弘佑

協力分担：なし

8月中下旬播種作型において遮光試験を行った結果、発蕾後から1か月程度の50%遮光を行うことで開花を抑制できると示され、花色の濃い有色品種においても花卉着色への影響はみられなかった。一方で摘芯後からの遮光では開花抑制効果がほとんどないと考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

ウ 安定出荷につながる開花予測と品質保持技術の開発

(ア) ストック D2 出荷における効果的な前処理剤の検討

担当者：松崎弘佑・神庭涼子

協力分担：なし

D2 出荷条件における効果が高い前処理剤を検討し、併せてクリザールによる後処理との相性を確認した。前処理剤は4剤を供試し、品質保持効果等について検討したところ、ブレイクスルー、オスバン、ウルトラファインバブル、美咲ファームの順で保持効果が高かった。またクリザールによる後処理で問題は発生せず、供試した4

剤とクリザールの組み合わせに問題は無いと考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(2) 切り花 (シンテッポウユリ)

ア 露地作型の高品質化と長期出荷体系の確立

(ア) 化成肥料施肥量の削減

担当者：田邊雄太・神庭涼子

協力分担：なし

元肥に投入する化成肥料の量を慣行と比べて半減できないか検討した。慣行量の堆肥を施用すれば元肥のLP140の施肥量を慣行と比べて半減させても、定植後と6月下旬の葉色が低下するタイミングで追肥を行えば、慣行施肥と同等の切り花品質を確保できることが明らかになった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(イ) 省力的な雑草対策技術の確立

担当者：田邊雄太・神庭涼子

協力分担：なし

バスマイド処理に替わる省力的な雑草対策技術として、トレファノサイドの定植後畝上散布処理を検討した。定植後のトレファノサイド250～500倍の処理で抑草できるが、薬害が発生した。トレファノサイド500倍処理は薬害が見られたものの無処理と比較して採花率および切り花品質に大きな差がなかったことから、シンテッポウユリ定植後の雑草対策として使える可能性がある。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(ウ) チェーンポット栽培に適した品種の選定

担当者：田邊雄太・神庭涼子

協力分担：なし

定植作業省力化のため、露地作型においてチェーンポット栽培試験を行った。現在主に栽培されている2品種‘F₁オーガスタEX’、‘F₁凜花EXII’において、チェーンポット栽培はセルトレイ栽培と同等の切り花品質が得られることが明らかになった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(エ) 出荷時期調整のための冷蔵保存試験

担当者：田邊雄太・神庭涼子

協力分担：なし

出荷時期を遅らせる方法を検討するため、冷蔵庫で保存試験を行った。5℃の冷蔵庫で2週間冷蔵しても開花に大きな影響はなく、冷蔵庫保存により出荷時期を遅らせることが可能と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

イ 秋冬出荷作型の採花率向上と高品質化

(ア) 直播き栽培の検討

担当者：田邊雄太・遠藤英

協力分担：なし

シンテッポウユリの栽培労力軽減策として、本圃への直播き栽培を検討した。‘F₁凜花EXII’の5月8日、15日播種と‘F₁グランデスタ’の4月24日、5月1日播種で試験したところ、F₁グランデスタ’の4月24日播種が抽台率および採花率が高く、輪数が多かったため、直播栽培に適している可能性があると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(イ) シンテッポウユリの減肥栽培

担当者：田邊雄太・遠藤英

協力分担：なし

リン酸と加里が多く残る圃場において、リン酸と加里の減肥が生育に及ぼす影響を明らかにするため、減肥栽培試験を行った。リン酸と加里の施肥量を減らしても切り花品質に問題がないことが明らかになった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(ウ) 秋冬出荷作型に適した品種の検討

担当者：田邊雄太・遠藤英

協力分担：なし

秋冬出荷作型に適した品種を明らかにするため、‘F₁凜花EXII’と‘F₁グランデスタ’の栽培試験を行った。‘F₁凜花EXII’は‘F₁グランデスタ’より採花率が高く、‘F₁グランデスタ’は‘F₁凜花EXII’より輪数が多いというそれぞれの品種の特徴があり、どちらが秋冬作型に適しているとは結論付けられなかった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(エ) 試験場育種系統の現地適応性

担当者：田邊雄太・遠藤英

協力分担：大栄花き部会、東伯普及所

試験場育種系統「24G」の現地適応性を評価するため、生産者ハウス2か所で栽培試験を行った。「24G」は切り花品質に大きな問題がなく、「F₁凛花EXⅡ」と同等の抽台率で、「F₁凛花EXⅡ」より輪数が多い傾向だったことから、現地普及できる可能性があるとして評価した。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(オ) 育苗期後半の高温が抽台に及ぼす影響の解明

担当者：田邊雄太・遠藤英

協力分担：なし

定植前苗冷蔵前後の高温遭遇が抽台に及ぼす影響を明らかにするため、栽培試験を行った。定植前苗冷蔵前後に40℃程度の高温に遭遇しても抽台に大きな影響がないことが明らかになった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(カ) 定植前苗冷蔵時間と定植時期が生育に及ぼす影響の検討

担当者：田邊雄太・遠藤英

協力分担：なし

抽台率および輪数向上を目的に、定植前苗冷蔵時間と定植時期の組み合わせ処理が生育に及ぼす影響を検討した。7月1日定植の100時間冷蔵が最も秋冬出荷作型に適しており、定植日を7月4日以降に遅らせると300時間冷蔵しても抽台率および採花率が低下することが明らかになった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(3) 切り花（アスター）

ア 秋出荷マイクロアスターの品質向上と開花期調節に効果的な光照射法の検討

(ア) アスターにおけるチェーンポット栽培の実証

担当者：松崎弘佑・神庭涼子

協力分担：なし

高温期に播種が必要となる抑制アスターの発芽対策のため、チェーンポット栽培と慣行の直播栽培を比較し、

品質を検討した。チェーンポット栽培で草丈等の品質が劣り、直播栽培でも条件を整えることで高発芽率となることから、現状チェーンポットの有用性は低いと考えられた。今後の気象推移とより良い育苗条件が揃えば高温対策の選択肢の一つとなる可能性が考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(イ) アスターにおけるBS資材の利用検討

担当者：松崎弘佑・神庭涼子

協力分担：なし

高温期におけるBS資材ポテトールの効果を検討した。ポテトール散布によって花芽分化および開花が促進される可能性が示唆されたが、機器の不具合により電照期間が不足し、品質に影響が生じたため再度検討が必要と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(ウ) アスターコーティング種子の検討

担当者：松崎弘佑・神庭涼子

協力分担：なし

アスターの崩壊タイプコーティング種子の有用性について検討した。セルトレイにおける播種試験により、適湿条件土壌で播種を行い、播種直後に0.07t/a程度のごく少量をかん水することで発芽が向上する傾向がみられた。今後本圃における検討が必要である。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

イ 大輪系アスターの栽培方法検討

(ア) 大輪系アスターの品質向上手法の検討

担当者：松崎弘佑・神庭涼子

協力分担：なし

アスターの秋出荷作型において、長期間の遮光により、大輪系品種を高品質で栽培可能となることが明らかになった。一方で品種により適した遮光時期等が異なる可能性が考えられたことから、遮光実施時期の検証や長期間の遮光条件下における有望品種の模索が必要と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(4) 切り花（ハボタン）

ア 高品質な切り花ハボタン栽培の確立

(ア) 栽植密度の検討

担当者：田邊雄太、遠藤英

協力分担：なし

市場から要望のあった2品種について、適した栽植密度を明らかにするため栽培試験を行った。2株植えが3株植えと比べて切り花長が長い切り花を確保しやすいことが明らかになった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(イ) 直播栽培の検討

担当者：田邊雄太、遠藤英

協力分担：なし

省力的な栽培方法として直播栽培が可能かを明らかにするため、遮光が発芽率に及ぼす影響を検討した。遮光率50%の寒冷紗で2重遮光することで発芽率を高めることができ、7月下旬の暑い時期でも直播栽培が可能だと考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(5) 花壇苗

ア EOD 光照射+EOD 加（保温）+わい化剤を組み合わせた早春出荷法の確立

担当者：遠藤英・神庭涼子

協力分担：なし

花壇苗の低コスト早春出荷法確立のために、発蕾までのEOD-FR光照射およびEOD保温（夜間密閉+日の出前4h無加温処理）とわい化剤の組み合わせ法を検討した。アリッサム他6品目において、栽培時における暖房コストを慣行より削減して、到花日数および品質面で同等な栽培が可能だと明らかになった。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

イ 高温期における安定・高品質生産技術の確立

(ア) サルビアにおけるハウス降温管理の検討

担当者：遠藤英・神庭涼子

協力分担：なし

高温期の成品率を向上させるために、寒冷紗の設置方法が生育に及ぼす影響について検討した。7月上旬中

種で、気温が平年よりかなり高い気象条件下でのサルビア栽培に効果的な遮光方法は、収穫まで1重遮光+簡易細霧処理と考えられた。簡易細霧処理を利用できない環境下では、収穫まで2重遮光または活着から10日間まで2重遮光し、その後は収穫まで1重遮光の組み合わせが適すると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(イ) サルビアにおける苗サイズの検討

担当者：遠藤英・神庭涼子

協力分担：なし

高温期の成品率を高めるために、苗サイズの違いが高温期における生育に及ぼす影響について検討した。7月上旬播種作型では、サルビアの栽培に用いる苗サイズとしては、200穴の苗が優れていたが、苗生産コスト等を考慮する必要がある。苗サイズだけでは、近年の猛暑に対応するのは難しく、その他高温対策を含めた複合的な対策が必要と考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(ウ) パンジーにおけるハウス降温管理検討

担当者：遠藤英・神庭涼子

協力分担：なし

高温期の成品率を向上させるために、寒冷紗の設置方法が生育に及ぼす影響について検討した。7月下旬播種で、気温が平年よりかなり高い気象条件下でのパンジー栽培に効果的な遮光方法は、収穫まで1重遮光+簡易細霧処理と考えられた。簡易細霧処理を利用できない環境下では、活着から10日間まで2重遮光を行い、その後は収穫まで1重遮光の組み合わせが適すると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(エ) パンジーにおけるセルトレイ苗冷蔵処理の検討

担当者：遠藤英・神庭涼子

協力分担：なし

高温期の成品率向上を目的に、冷蔵処理が高温期におけるパンジーの生育に及ぼす影響について検討した。わい化剤処理+3週間以上の冷蔵処理により、無処理の間

伸びした成苗に比べ、締まったコンパクトな成苗となり、花蕾数も増加する傾向がみられたが、冷蔵処理が障害株発生割合に及ぼす影響は判然としなかった。

〈本試験成績掲載印刷物：3〉

(6) シバ

ア 生理障害抑制法の確立

(ア) 土壌改良剤による地下部生育促進の検討

担当者：遠藤英・田邊雄太

協力分担：なし

生理障害対策のため、土壌改良剤施用が地下部生育促進に及ぼす影響を検討した。グリーンバードJでは、ピートモス30%および15%、もみがら燻炭30%および15%処理で、播き芝から2年経過後も根茎発達を阻害せず、地下部生育促進効果がみられた。

〈本試験成績掲載印刷物：3〉

19. 環境に配慮した持続可能な農業拡大推進事業

(1) 化学農薬・肥料の使用削減、廃プラスチックの排出量削減

ア 花壇苗における生分解性ポットの利用方法の検討

(ア) 低温期における生分解性ポットの利用方法の検討

担当者：神庭涼子・遠藤英

協力分担：なし

環境負荷が少ない生産資材が花壇苗生育に及ぼす影響を明らかにするため、低温期にペチュニアを用いて生分解性ポットおよびポリポットによる育苗、本圃への定植を行い、生育、品質および生分解性ポットの分解状況について検討した。生分解性ポットとポリポットで苗生育は同等であり、生分解性ポットの分解による育苗時の作業性低下は起こらなかったが、定植後に生分解性ポット育苗したもので枯死する株があった。本試験で供試した生分解性ポットは低温期の使用も難しいと考えられた。

〈本試験成績掲載印刷物：3〉

20. 花ふれ愛事業

(1) ミニフラワーガーデン設置事業

ア 県中部施設への花壇苗配布

担当者：神庭涼子

協力分担：生産振興課、農業大学校

中部地区の県関係施設（東伯普及所等）の花壇やプラセンターに花きのある環境を作るため花壇苗を配布した。配布は夏季と秋季の2回。夏季は7.5cmポットで育成したポーチュラカを約300ポット配布した。秋季は9cmポットで育成したサルビアを約300ポット配布した。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

21. 市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸品種の育成

(1) スイカ耐病性優良台木の育成と実用化

ア スイカつる割病耐病性系統の選抜

担当者：井上和・谷口美保

協力分担：なし

世界スイカ遺伝資源銀行に保管されているスイカ遺伝資源を活用して、スイカつる割病耐病性系統と黒点根腐病耐病性系統の交配により、両病害に耐病性を有する台木を育成するべく、ここでは交雑系統のスイカつる割病に対する耐病性選抜および固定を図った。5cm×5cm、55穴連結ポットに1穴1粒を播種し、播種9日後に病原菌懸濁液をかん注し接種した。接種後はハウス内に設置した内トンネル（温床25℃）で管理した。その結果、検定15系統のうち14系統について耐病性の高い個体を選抜し、隔離ハウスに定植し自殖種子を得た。

〈本試験成績掲載印刷物：なし〉

イ 黒点根腐病耐病性検定

担当者：井上和・谷口美保

協力分担：なし

スイカつる割病耐病性及び黒点根腐病耐病性を有するスイカ台木を育成するため、スイカつる割病耐病性系統として、場内で選抜し固定したスイカ台木2系統を用いた接木菌を黒点根腐病汚染圃場に定植し、2本整枝1果どりで栽培した。その結果、対照品種‘台じょうぶ’よ

りも黒点根腐病に強い系統はなかった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(2) イチゴ新品種の育成と実用化

ア 有望系統のイチゴ3, 5次選抜

担当者：荒木佑哉・谷口美保

協力分担：なし

鳥取県オリジナル品種‘とっておき’の課題（春先の果実糖度、果皮硬度の低下）を克服した新たな品種育成に向け、果実糖度、果皮硬度が安定し、鳥取の寡日照条件下でも多収で食味に優れた系統を選抜する。ここでは、2～3年間の食味調査を経て選抜された4系統について、収量及び食味の調査を実施した結果、‘X2105-2’は糖度・硬度が高く安定していたが、食味低下が一時的にみられたため、再検討する必要があると考えられた。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(3) ユリ新品種の開発

ア 秋冬出荷栽培に適したシンテッポウユリの開発

(ア) 選抜系統の形質の改良

担当者：田邊雄太・遠藤英

協力分担：なし

短日期の栽培となるシンテッポウユリ秋冬出荷栽培で、①抽台率が高く、②年内採花が可能で、③輪数が多いことを選抜条件として、品種育成を行った。交配して得られた各系統を令和6年度に調査した結果、採花率の高い系統の中で輪数が多い「25A」および「25I」を有望系統とし、優良個体の交配を行った。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

(4) アジサイ新品種の開発

ア 八重咲き新品種の育成

担当者：田邊雄太・遠藤英

協力分担：なし

有利販売につながる鳥取県オリジナルのアジサイ品種を育成するため、交配および育成を行った。令和6年交配株を16系統344株、令和7年交配系統を16系統1338株育成した。

〈本試験成績登載印刷物：3〉

〈農林水産試験場臨時的調査研究事業〉

22. 臨時的調査研究

(1) 有機銅水和剤のナシ果実における防除効果および残効（自然感染条件下）

担当者：山田高之・北山淑一

協力分担：アグロカネショウ(株)、エア・ウォーター(株)

自然感染条件下で、ナシ黒星病に対する有機銅水和剤の果実における防除効果および残効を明らかにすることを目的に、同一期間内で散布間隔を変えて複数回散布を行い、その後の発生量を調査した。その結果、防除効果は約10日後まで極めて高く、約15日後においても効果的な水準で認められる可能性があり、降雨の無い条件下では有効成分が長期間残存する可能性が示唆された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(2) 樹齢、栄養状態および結果母枝の由来が‘花御所’の雌花着生に及ぼす影響

担当者：稲本俊彦・亀岡靖崇・谷脇恵吾・井戸亮史

協力分担：郡家柿生産部、JA鳥取いなば、八頭普及所

‘花御所’のへたすき軽減を目的に、樹齢、結果母枝の由来および栄養状態が雌花着生量やへたすきに及ぼす影響について調査を行った結果、樹齢が‘花御所’の雌花着生量およびへたすきに影響することが示唆された。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

(3) 出荷後のスイカ果実腐敗対策に向けた病原性確認方法の検討

担当者：川田久美子・坂井侑香里・北山淑一

協力分担：倉吉普及所

県内のスイカ産地（特に倉吉地区）で発生している市場出荷後の腐敗への対策に向けて原因と考えられる細菌のスイカでの病原性を確認する手法の確立を目的に、山口県より分譲された細菌（3種）を用い、病原性が確認可能な接種条件を検討した結果、軟化腐敗症状・発泡症状ともに病原性の確認が可能となった。

〈本試験成績登載印刷物：なし〉

Ⅲ 研究業績一覧

1 試験成績登載印刷物

- | | | |
|----|-------------------|---|
| 1 | (農研機構)果樹茶業研究部門 | (2025)令和7年度果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会資料(落葉果樹) |
| 2 | (農研機構)野菜花き研究部門 | (2025)令和7年度野菜育成系統評価試験成績概要 |
| 3 | (農研機構)野菜花き研究部門 | (2025)令和7年度花き試験研究成績概要集 |
| 4 | (農研機構)西日本農業研究センター | (2025)令和7年度近畿中国四国農業試験研究成績・計画概要集 病害 |
| 5 | (農研機構)西日本農業研究センター | (2025)令和7年度近畿中国四国農業試験研究成績・計画概要集 虫害 |
| 6 | (農研機構)西日本農業研究センター | (2025)令和7年度近畿中国四国農業試験研究成績・計画概要集 土壌肥料 |
| 7 | 日本植物防疫協会 | (2025)令和7年度新農薬実用化試験成績(落葉果樹) |
| 8 | 日本植物防疫協会 | (2025)令和7年度新農薬実用化試験成績Ⅵ近畿中国地域(稲・野菜等)病害防除 |
| 9 | 日本植物防疫協会 | (2025)令和7年度新農薬実用化試験成績Ⅵ近畿中国地域(稲・野菜等)虫害防除 |
| 10 | 日本植物調節剤研究協会 | (2025)令和7年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績集録 |
| 11 | 日本植物調節剤研究協会 | (2025)令和7年度秋冬作野菜・花き関係除草剤・生育調節剤試験成績集録 |
| 12 | 日本植物調節剤研究協会 | (2025)令和7年度春夏作野菜・花き関係除草剤・生育調節剤試験成績集録 |
| 13 | 日本植物調節剤研究協会 | (2025)令和7年度秋冬作芝生関係除草剤・生育調節剤試験成績集録 |
| 14 | 日本植物調節剤研究協会 | (2025)令和7年度春夏作芝生関係除草剤・生育調節剤試験成績集録 |
| 15 | 鳥取県病害虫防除所 | (2025)令和7年度農作物有害動物発生予察事業年報 |

2. 普及に移した新しい技術

(1) 鳥取県農林水産部編 新しい技術 第63集(2025)

I 普及に移す新しい技術

II 新しい品種・種畜

- ① ニホンナシ新品種候補‘鳥園L’：瀨上 彩、長谷川諒、米村善栄、前田英博、井戸亮史、山田高之、小山未来
- ② イチゴ新品種‘堅しろう’：荒木佑哉、井上 和、川口亜弓、谷口美保、白岩裕隆
- ③ 極晩抽性春どりネギ品種‘陽春の宴’ 吹野颯音、岡崎悠希

III 参考となる情報・成果

- ① 元肥無施用による‘おさゴールド’の施肥削減：谷脇恵吾、門河紘希、小倉敬右、井戸亮史、山本匡将、池田隆政、角脇利彦、吉田 亮
- ② 夏肥無施用による‘おさゴールド’の施肥削減：谷脇恵吾、門河紘希、小倉敬右、井戸亮史、山本匡将、池田隆政、角脇利彦、吉田 亮
- ③ エテホンの散布による‘新甘泉’の熟期促進：中西彩歌、大西 優、瀨上 彩、長谷川諒、井戸亮史
- ④ 高温期の樹上散水による‘玉秋’のコルク状果肉障害の低減効果：谷脇恵吾、亀岡靖崇、井戸亮史
- ⑤ ニホンナシ‘甘太’の果実品質に果実袋が及ぼす影響と白色パラフィン袋使用時の貯蔵性向上資材の検討：瀨上 彩、長谷川諒、小山未来、井戸亮史
- ⑥ 樹齢及び前年の結果母枝の雌雄性が‘花御所’のへたすき及び雌花着生量に及ぼす影響：稲本俊彦、亀岡靖崇、井戸亮史
- ⑦ ナシ黒星病菌の分生子が付着した指先とナシ果実の接触による伝染：山田高之、北山淑一
- ⑧ ナシ炭疽病に対するキャプタンを有効成分とする薬剤の追加防除効果：山田高之、北山淑一
- ⑨ 薬剤によるナシ果実の汚れ程度：山田高之、古井佑樹、北山淑一
- ⑩ ナシのクワゴマダラヒトリに対する薬剤の感受性検定：皆川雄哉、北山淑一
- ⑪ ナシ・カキのハスモンヨトウに対する薬剤の感受性検定：皆川雄哉、北山淑一
- ⑫ 鳥取県のブドウ園におけるダニ類の発生種および発生時期：皆川雄哉、北山淑一
- ⑬ ネギ萎凋病に対する定植前処理による防除効果の確認：川田久美子、竹中春人、北山淑一
- ⑭ ネギのネギアザミウマに対する薬剤の感受性検定：竹中春人、鈴木 祐、米村善栄、北山淑一
- ⑮ シロイチモジヨトウに対する各種殺虫剤の殺虫効果の検討(第2報)：竹中春人、鈴木 祐、米村善栄、北山淑一

- ⑩ 弓浜砂丘地域における地下水位と白ネギ湿害の実態調査：井上浩
- ⑪ 地下水位が高いほ場での白ネギ排水対策：井上浩
- ⑫ 元肥無施用による‘ねばりっ娘’の施肥削減：鳥飼周平、石河利彦
- ⑬ 夏秋ピーマンの基肥うね内局所施肥によるコスト削減：小谷和宏、大豊航史
- ⑭ シンテッポウユリの露地盆出荷作型における化学肥料施用量の削減：田邊雄太、遠藤 英、神庭涼子
- ⑮ シンテッポウユリのハウス秋冬出荷作型における減肥栽培：田邊雄太、遠藤 英
- ⑯ 大輪系アスターの品質向上手法の検討：松崎弘佑、神庭涼子、遠藤 英
- ⑰ スプレー系ストックの遮光による開花調節：神庭涼子、松崎弘佑、遠藤 英
- ⑱ 高温期における安定・高品質生産技術の確立 サルビアにおけるハウス降温管理の検討：遠藤 英、神庭涼子
- ⑲ 高温期における安定・高品質生産技術の確立 サルビアにおけるハウス苗サイズの検討：遠藤 英、神庭涼子
- ⑳ 高温期における安定・高品質生産技術の確立 パンジーにおけるハウス降温管理の検討：遠藤 英、神庭涼子

(2) 近中四農研センター編 近中四農研成果情報 なし

3. 学会の口頭発表等 なし

4. 学会誌・大会誌・主要農業誌に発表した課題 なし

5. 品種登録・特許

(1) 品種登録申請

ア ナシ

長谷川諒 米村善栄 前田英博 池田隆政 山本匡将 井戸亮史 森本康史 山田高之 小山未来

‘鳥園L’ 出願番号 第38044号 出願年月日 令和7年5月21日

出願公表日 令和7年8月28日

IV 総務報告

1 研修生受け入れ

なし

2 来場利用者

月	区分	本場		砂丘研		弓浜分場		日南		合計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	県内	33	773	2	2	32	60	28	52	95	887
	県外	2	4	0	0	6	11	3	4	11	19
	計	35	777	2	2	38	71	31	56	106	906
5	県内	28	505	5	30	38	130	30	33	101	698
	県外	2	24	1	1	4	13	1	1	8	39
	計	30	529	6	31	42	143	31	34	109	737
6	県内	58	738	8	34	38	92	21	50	125	914
	県外	1	38	0	0	6	19	3	5	10	62
	計	59	776	8	34	44	111	24	55	135	976
7	県内	54	517	10	32	32	58	27	83	123	690
	県外	2	7	1	1	5	7	4	5	12	20
	計	56	524	11	33	37	65	31	88	135	710
8	県内	31	561	3	23	29	85	28	47	91	716
	県外	1	11	0	0	7	14	3	4	11	29
	計	32	572	3	23	36	99	31	51	102	745
9	県内	41	737	2	21	33	77	28	40	104	875
	県外	6	11	0	0	8	9	4	4	18	24
	計	47	748	2	21	41	86	32	44	122	899
10	県内	35	740	0	0	39	128	14	62	88	930
	県外	1	1	1	1	6	40	2	2	10	44
	計	36	741	1	1	45	168	16	64	98	974
11	県内	51	547	1	6	33	47	14	17	99	617
	県外	6	82	0	0	11	48	3	2	20	132
	計	57	629	1	6	44	95	17	19	119	749
12	県内	49	503	6	9	24	38	10	14	89	564
	県外	4	142	1	1	2	11	1	1	8	155
	計	53	645	7	10	26	49	11	15	97	719
1	県内	36	461	1	1	24	48	4	7	65	517
	県外	1	1	1	18	2	4	0	0	4	23
	計	37	462	2	19	26	52	4	7	69	540
2	県内	45	641	3	6	14	22	7	12	69	681
	県外	3	38	0	0	3	4	0	0	6	42
	計	48	679	3	6	17	26	7	12	75	723
3	県内	42	568	7	11	22	25	7	7	78	611
	県外	5	25	0	0	7	11	2	3	14	39
	計	47	593	7	11	29	36	9	10	92	650
合計	県内	503	7,291	48	175	358	810	218	424	1,127	8,700
	県外	34	384	5	22	67	191	26	31	132	628
	計	537	7675	53	197	425	1001	244	455	1,259	9,328

3 土地および建物

(1) 土地

単位：㎡

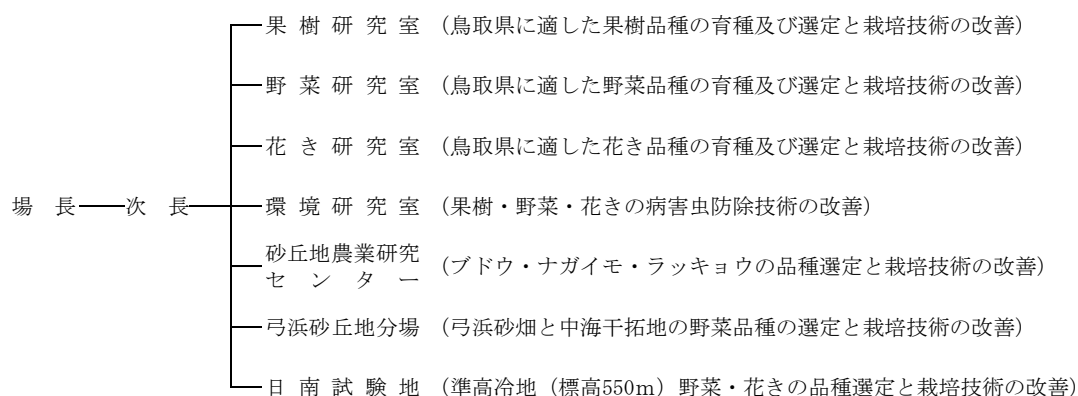
区 分	本 場				弓 浜 砂 丘 地 分 場	砂 丘 地 農 業 研 究 セ ン タ ー	日 南 試 験 地	旧 河 原 試 験 地	倉 吉 ほ 場	合 計
	樹園地	黒ぼく畑	砂畑	計						
ほ 場	81,250.00	27,293.00	9,000.00	117,543.00	19,983.00	5,578.00	6,500.00	0.00	6,087.04	155,691.04
建 物 用 地	14,450.00	17,523.00	1,950.00	33,923.00	850.00	376.00	1,400.00	300.00	13,395.00	50,244.00
そ の 他	22,077.00	26,576.91	4,496.00	53,149.91	8,185.52	3,900.33	12,514.09	1,245.11	6,309.00	85,303.96
計	117,777.00	71,392.91	15,446.00	204,615.91	29,018.52	9,854.33	20,414.09	1,545.11	25,791.04	291,239.00

(2) 建物

単位：㎡

区 分	樹園地	砂丘地農業研究センター	弓浜砂丘地分場	日南試験地	旧河原試験地	旧生物工学研究室	合 計
本 館	1,791.00	376.79	300.90	214.65	235.40	754.26	3,673.00
附 属 建 物	3,678.84	60.00	548.57	189.47	177.97	1,324.23	5,979.08
計	5,469.84	436.79	849.47	404.12	413.37	2,078.49	9,652.08

4 機構と業務



5 職員の状況（令和8年3月末日現在）

（1）定員及び現員

職 種 別	定 員	現 員	備 考
事務職員	1	1	
技術職員	35	35	
現業職員	5	5	
計	41	41	

（2）職員構成

<p>場 長(技)池田隆政 次 長(技)米村善栄 課長補佐(事)藤田智子</p> <p>【果樹研究室】 室 長(技)井戸亮史 主任研究員(〃)川上和博 研 究 員(〃)濱上 彩 〃 (〃)中西彩歌 〃 (〃)稲本俊彦 〃 (〃)亀岡靖崇 〃 (〃)谷脇恵吾 農林技師(〃)遠藤貴裕 現業職長(〃)田中啓介 〃 (〃)中嶋 吏</p> <p>【野菜研究室】 室 長(技)谷口美保 主任研究員(〃)福田侑記 研 究 員(〃)井上 和 〃 (〃)荒木佑哉 〃 (〃)福井咲乃 現業職長(〃)吉田 茂</p>	<p>【花き研究室】 室 長(技)遠藤 英 研 究 員(〃)松崎弘佑 〃 (〃)神庭涼子 〃 (〃)田邊雄太</p> <p>【環境研究室】 室 長(技)北山淑一 主任研究員(〃)川田久美子 研 究 員(〃)坂井侑香里 〃 (〃)山田高之 〃 (〃)皆川雄哉 〃 (〃)竹中春人 現業職長(〃)吉田孝也</p>	<p>【砂丘地農業研究センター】 所 長(技)石河利彦 主任研究員(〃)森本隆義 研 究 員(〃)大津真士 〃 (〃)藤原洋大 〃 (〃)鳥飼周平</p> <p>【弓浜砂丘地分場】 分 場 長(技)井上 浩 研 究 員(〃)吹野颯音 〃 (〃)久米千晴 現業職長(〃)森 茂彦</p> <p>【日南試験地】 試験地長(技)小谷和宏 研 究 員(〃)大豊航史</p>
--	--	---

(3) 職員の異動

発令日	辞令	職名	現員	異動の内容
R7.4.1	転出	室長 主任研究員 研究員 研究員 研究員 研究員 研究員 研究員 研究員	白岩裕隆 戸板重則 長谷川諒 田中 需 岡崎悠希 大西 優 麻木聖也 鈴木 祐 柳凜太郎	西部農業改良普及所へ 八頭農業改良普及所へ 東伯農業改良普及所へ 鳥取農業改良普及所へ 農業大学校へ 中部農林局農業振興課へ 倉吉農業改良普及所へ 退職 退職
	転入	室長 室長 主任研究員 研究員 研究員 研究員 研究員 研究員 研究員 研究員	谷口美保 北山淑一 福田侑記 濱上 彩 藤原洋大 中西彩歌 吹野颯音 久米千晴 皆川雄哉 福井咲乃	昇任 生産振興課より 担い手育成機構より 農業大学校より 販路拡大・輸出促進課より 倉吉農業改良普及所より 日野農業改良普及所より 西部農業改良普及所より 東伯農業改良普及所より 新規採用

6 予算状況

(1) 園芸試験場費

(単位：千円)

事業名	令和7年度 当初予算額	令和6年度		財源内訳（7年度）		
		当初予算額	最終予算額	国補	その他	一般財源
管理運営費	45,997	96,666	96,666	0	0	45,997
試験研究費	45,736	44,780	44,780	0	5,668	40,068
合計	91,733	141,446	141,446	0	5,668	86,065

(2) その他の執行予算

(単位：千円)

予算科目	事業名	令和7年度 当初予算額	備考
肥料植物防疫費	病虫害防除所運営費外	960	
農業総務費	先進的農林水産試験研究推進強化事業等	2,497	
農作物対策費	生産振興推進事業等	1,745	

(3) 主な備品購入

(単位：千円)

備品名	型式・規格	金額	担当
ロボット草刈り機	和同産業 MR-400H 2台	2,240	果樹
ネギ皮むき機	マツモト NEW MED 型	523	弓浜
ラッキョウ定植機	イセキ PVHR403-100RL3	1,463	砂丘
原子吸光分光光度計用 PC	富士通 ESPRIMO D7012N	685	果樹
スポットクーラー	スイデン SS-25DLN-1 6台	845	—

V 令和7年 半旬別気象表

観測地点：鳥取県園芸試験場（東伯郡北栄町由良宿 2048） 平年値：昭和52年～令和6年

月	半旬	気 温 (°C)					降水量 (mm)		日照時間 (h)		
		平 均		最 高		最 低		本年	平年	本年	平年
		本年	平年	本年	平年	本年	平年				
1月	1	5.4	5.0	9.8	8.6	1.5	1.6	6.5	25.7	16.6	12.6
	2	3.0	4.8	6.3	9.0	0.3	1.3	21.0	24.4	8.8	14.6
	3	3.9	4.3	8.6	8.2	0.2	1.0	44.0	28.6	16.9	13.7
	4	4.7	4.3	10.0	8.2	0.9	0.9	30.0	24.9	18.6	13.6
	5	5.9	3.7	11.3	7.5	2.2	0.4	11.0	26.9	17.9	13.2
	6	4.5	3.9	7.8	8.0	1.6	0.5	5.0	27.5	21.7	18.3
平均 (合計)		4.6	4.3	8.9	8.2	1.1	1.0	117.5	158.0	100.6	86.1
2月	1	3.0	3.5	6.8	7.6	0.0	0.0	8.5	21.1	12.4	14.7
	2	0.5	3.9	4.3	8.4	-2.6	0.0	27.5	22.9	20.6	17.0
	3	4.3	5.0	9.6	9.7	-1.4	0.9	3.0	20.1	21.1	16.9
	4	3.3	4.3	7.0	8.9	0.0	0.3	28.5	24.7	15.3	17.4
	5	1.8	5.1	6.2	9.3	-2.5	1.1	33.5	18.5	25.2	18.3
	6	7.3	5.4	11.9	10.2	1.7	0.9	0.0	11.5	15.3	13.3
平均 (合計)		3.1	4.5	7.3	9.0	-1.0	0.5	101.0	118.8	109.7	97.6
3月	1	7.3	5.8	10.4	10.6	4.3	1.5	94.5	23.5	8.6	20.1
	2	5.0	6.5	9.0	11.6	0.6	1.8	5.5	16.3	24.5	21.8
	3	8.2	7.2	13.4	12.6	2.8	1.9	13.5	18.5	27.9	24.6
	4	4.3	8.0	8.9	13.3	0.6	2.6	66.5	18.2	14.3	24.8
	5	17.0	8.1	22.5	13.3	9.6	3.0	0	21.9	42.9	24.3
	6	9.7	9.1	15.5	14.5	4.4	3.6	48.0	20.5	31.4	33.1
平均 (合計)		8.6	7.4	13.4	12.7	3.7	2.4	228.0	118.9	149.6	148.8
4月	1	8.0	10.0	12.6	15.7	1.9	4.3	10.5	18.1	25.7	31.8
	2	12.1	11.3	19.0	17.4	5.3	5.7	5.0	18.2	39.5	29.2
	3	10.4	11.8	14.9	17.0	4.8	6.2	21.0	20.1	18.3	29.9
	4	17.6	12.9	24.2	18.7	11.4	7.1	3.5	18.6	34.0	33.9
	5	14.3	13.6	18.7	19.2	8.9	8.3	16.0	13.8	32.6	33.4
	6	13.6	14.6	19.8	20.5	5.7	8.5	4.5	16.1	43.7	36.8
平均 (合計)		12.7	12.4	18.2	18.1	6.4	6.7	60.5	104.9	193.6	195.0
5月	1	15.4	15.7	20.4	21.3	8.4	9.8	6.5	12.9	42.5	35.3
	2	15.8	16.3	20.8	21.9	10.6	10.6	27.5	17.1	33.1	35.4
	3	17.4	16.5	23.9	21.8	11.2	10.9	1.0	27.1	43.0	32.9
	4	20.5	17.1	25.4	22.7	16.3	11.4	9.5	22.5	34.1	35.6
	5	17.2	17.9	21.7	23.5	14.1	12.3	61.5	12.8	13.8	38.2
	6	16.1	18.7	20.0	23.9	11.7	13.5	2.0	20.8	44.4	40.9
平均 (合計)		17.0	17.0	22.0	22.5	12.0	11.4	108.0	113.1	210.8	218.3
6月	1	18.8	19.3	23.1	24.8	14.5	14.0	26.5	16.0	41.0	37.9
	2	21.6	20.1	26.5	25.0	16.7	15.4	2.0	16.8	22.5	33.2
	3	22.0	20.7	25.8	25.3	18.5	16.4	16.0	21.3	23.3	30.3
	4	24.8	21.5	30.4	26.0	19.8	17.4	3.5	22.2	41.4	30.5
	5	25.0	21.8	29.3	26.0	22.3	18.1	93.5	43.7	9.0	25.2
	6	24.7	23.0	28.9	26.9	20.5	19.6	38.0	42.1	51.2	23.1
平均 (合計)		22.8	21.1	27.3	25.7	18.7	16.8	179.5	161.2	188.4	180.3

月 半旬	気 温 (°C)						降水量 (mm)		日照時間 (h)		
	平 均		最 高		最 低		本年	平年	本年	平年	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年					
7 月	1	27.9	23.7	32.7	27.8	23.9	20.4	0	41.8	50.1	23.9
	2	27.2	24.2	31.2	28.5	23.2	20.6	0	43.7	48.4	26.4
	3	26.6	25.0	31.1	29.2	22.3	21.6	23.5	44.4	27.1	23.5
	4	29.3	25.2	33.6	29.6	25.7	21.4	9.0	34.7	38.2	30.8
	5	28.7	26.4	33.4	31.1	24.0	22.4	0	18.1	59.1	36.6
	6	29.2	26.8	33.5	31.4	24.9	22.7	0	12.7	71.4	46.8
	平均 (合計)	28.2	25.2	32.6	29.6	24.0	21.5	32.5	195.2	294.4	188.1
8 月	1	28.4	27.7	33.2	32.0	23.6	23.0	6.5	14.8	39.4	42.0
	2	26.7	26.9	30.9	31.7	22.7	22.8	105.5	21.8	25.5	36.5
	3	26.7	26.6	30.2	31.4	23.8	22.6	33.5	28.8	30.2	34.2
	4	28.0	26.2	33.3	31.1	23.8	22.5	5.5	19.7	46.4	34.5
	5	28.3	26.0	32.9	30.7	24.2	22.0	0.5	24.2	40.8	30.0
	6	27.6	25.6	32.6	30.6	23.8	21.6	113.0	29.9	49.3	38.8
	平均 (合計)	27.6	26.5	32.2	31.3	23.7	22.4	264.5	139.3	231.6	216.0
9 月	1	27.3	24.6	32.9	29.4	23.4	20.7	64.0	38.7	31.8	30.5
	2	26.2	23.6	30.5	28.2	23.1	19.8	41.0	41.0	24.5	26.0
	3	26.4	22.9	29.8	27.6	23.7	19.2	40.5	30.8	19.0	25.6
	4	24.9	22.1	29.7	26.9	21.1	18.1	37.5	39.5	17.2	26.0
	5	23.2	20.8	27.2	25.4	19.5	16.8	18.5	36.2	13.0	22.3
	6	21.8	20.1	26.6	24.7	17.7	15.9	38.5	40.3	18.7	24.2
	平均 (合計)	25.0	22.4	29.5	27.0	21.4	18.4	240.0	226.4	124.3	154.5
10 月	1	21.0	19.1	25.9	24.1	17.4	14.5	42.0	26.2	22.6	25.5
	2	21.7	18.3	24.6	23.2	18.5	13.7	5.0	22.7	26.1	25.7
	3	21.5	17.4	26.1	22.6	18.0	12.8	40.0	25.7	19.0	25.0
	4	20.0	16.1	23.6	21.5	16.7	11.1	55.5	36.6	10.3	27.2
	5	15.0	15.3	18.7	20.8	11.4	10.4	1.5	27.1	12.4	26.4
	6	13.1	14.6	18.5	19.8	8.3	9.6	38.0	21.0	27.9	29.5
	平均 (合計)	18.7	16.8	22.9	22.0	15.1	12.0	182.0	159.2	118.3	159.3
11 月	1	12.6	13.6	18.1	19.2	7.8	8.6	12.0	29.2	24.5	24.2
	2	13.6	13.5	17.9	18.8	9.3	8.9	15.0	20.8	17.6	23.3
	3	12.0	12.1	18.1	17.1	7.9	7.6	1.0	31.4	24.5	18.7
	4	10.4	10.8	16.3	16.0	5.4	6.4	25.0	20.5	24.5	18.9
	5	11.6	10.1	17.8	15.4	7.2	5.5	3.5	20.5	23.0	19.1
	6	11.3	9.4	16.3	14.1	5.8	5.2	5.0	29.8	22.0	16.5
	平均 (合計)	11.9	11.6	17.4	16.8	7.2	7.0	61.5	152.1	135.9	120.7
12 月	1	7.8	8.4	12.3	13.3	3.8	4.1	27.5	22.5	11.2	17.6
	2	8.8	7.8	13.9	12.5	4.0	3.7	1.0	24.1	25.4	17.4
	3	7.4	7.1	11.2	11.4	3.8	3.4	74.0	30.5	13.0	14.2
	4	9.4	6.1	14.3	10.2	4.5	2.5	12.5	24.0	23.6	14.1
	5	9.6	6.2	13.0	10.4	5.2	2.4	47.0	23.3	5.5	14.7
	6	5.1	5.3	9.0	9.4	2.2	1.7	47.0	29.5	12.1	16.9
	平均 (合計)	8.0	6.8	12.3	11.2	3.9	3.0	209.0	153.7	90.7	94.9

観測地点：砂丘地農業研究センター（東伯郡北栄町田井 529）

（降水量、日照時間：平年値、本年値とも倉吉アメダス）

（温度平年値30年のうち：平成5年～令和2年は砂丘地農業センター、令和3～6年は倉吉アメダス）

月 半旬	気 温 (°C)						降水量 (mm)		日照時間 (h)		
	平 均		最 高		最 低		本年	平年	本年	平年	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年					
1 月	1	5.4	4.9	10.2	9.3	2.3	1.7	9.5	23.5	18.3	11.6
	2	3.1	4.6	6.1	9.5	0.5	1.1	29.0	28.8	9.0	12.0
	3	3.6	4.4	8.2	8.8	0.5	1.1	40.0	31.6	18.8	10.9
	4	5.0	4.7	9.7	9.2	1.8	1.3	20.5	28.3	20.7	12.1
	5	6.7	4.0	11.4	8.4	3.6	0.7	10.5	26.2	29.0	10.1
	6	4.8	4.2	8.0	8.8	1.8	0.7	4.5	29.9	19.7	16.0
平均 (合計)	4.8	4.5	8.9	9.0	1.8	1.1	19.0	28.1	19.3	12.1	
2 月	1	3.2	4.9	7.0	8.9	0.5	0.6	10.5	21.4	12.2	13.7
	2	0.4	4.6	3.4	9.5	-2.7	0.4	19.0	22.8	17.8	14.6
	3	4.6	4.4	9.8	10.4	-0.4	1.4	5.5	22.2	21.7	15.5
	4	3.2	4.7	6.4	9.9	0.5	0.9	25.5	25.9	10.8	16.4
	5	1.5	4.0	5.1	11.4	-2.6	1.5	35.0	16.1	19.2	18.7
	6	7.5	4.2	12.0	11.3	3.2	1.9	0.0	11.7	16.8	10.7
平均 (合計)	3.4	4.5	7.3	10.2	-0.3	1.1	15.9	20.0	16.4	14.9	
3 月	1	7.8	6.7	11.1	11.9	5.3	2.2	80.0	24.4	9.2	18.7
	2	5.5	7.0	9.7	12.3	1.8	2.6	9.0	20.0	27.1	18.3
	3	8.6	7.6	14.1	13.4	4.4	2.5	11.5	16.9	25.9	24.1
	4	4.5	8.8	8.7	14.9	1.2	3.6	51.0	24.0	12.1	23.6
	5	15.9	8.4	22.6	14.4	8.9	3.3	0	21.5	48.0	23.2
	6	10.1	10.0	15.5	16.2	5.7	4.4	42.5	20.9	30.2	31.4
平均 (合計)	8.7	8.1	13.6	13.9	4.6	3.1	32.3	21.3	25.4	23.2	
4 月	1	8.6	10.8	13.2	16.7	3.6	5.4	8.0	21.6	21.9	29.7
	2	12.8	11.7	19.4	18.1	6.8	6.0	4.0	13.1	41.3	29.0
	3	10.6	12.3	15.4	18.1	5.3	6.8	18.5	18.4	17.4	28.2
	4	17.7	13.5	25.5	20.2	11.6	7.7	3.5	15.4	36.7	30.1
	5	14.4	14.6	18.8	20.5	9.1	9.0	13.5	14.7	30.3	27.7
	6	14.5	15.2	20.4	21.7	8.0	9.4	13.5	14.7	46.8	33.0
平均 (合計)	13.1	13.0	18.8	19.2	7.4	7.4	10.2	16.3	32.4	29.6	
5 月	1	15.5	17.0	20.9	23.0	8.7	11.1	7.0	14.9	45.7	32.0
	2	16.2	17.2	21.8	23.5	11.3	11.5	21.5	15.4	30.0	31.1
	3	18.1	17.2	24.5	23.4	12.5	11.6	1.5	28.1	43.5	29.3
	4	20.8	18.1	26.6	24.5	16.4	12.9	5.0	18.1	33.3	31.0
	5	17.4	19.0	22.0	25.5	14.1	13.3	50.0	17.0	14.6	34.6
	6	16.5	19.6	20.3	25.6	12.4	14.2	1.0	21.8	37.6	34.5
平均 (合計)	17.4	18.0	22.7	24.3	12.6	12.4	14.3	19.2	34.1	32.1	
6 月	1	19.2	20.1	23.6	26.3	15.4	15.0	21.5	9.3	40.3	31.9
	2	22.5	20.4	27.9	26.2	17.6	15.7	2.0	14.5	21.9	24.9
	3	22.4	21.3	26.2	26.5	19.3	17.1	13.5	24.6	20.5	23.3
	4	25.8	22.2	31.8	27.5	21.1	18.0	3.0	20.9	45.1	23.9
	5	25.4	22.7	30.0	27.6	22.7	18.9	75.5	29.3	4.9	19.4
	6	24.8	24.0	28.4	28.9	21.7	20.1	28.5	43.4	54.8	17.3
平均 (合計)	23.4	21.8	28.0	27.2	19.6	17.5	24.0	23.7	31.3	23.4	

月 半旬	気 温 (°C)						降水量 (mm)		日照時間 (h)		
	平 均		最 高		最 低		本年	平年	本年	平年	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年					
7 月	1	27.9	24.5	31.7	29.2	25.0	21.1	0	45.0	56.0	18.1
	2	27.3	25.0	30.7	29.6	24.1	21.5	0	46.8	52.3	19.1
	3	26.8	25.6	30.3	30.6	23.1	22.0	17.5	37.4	28.9	18.5
	4	28.9	26.1	33.3	31.6	23.9	22.0	4.5	41.8	38.9	27.5
	5	28.8	27.2	33.4	32.9	24.9	22.9	0	17.6	65.1	31.8
	6	28.8	27.6	33.1	33.4	24.3	23.4	0	17.1	77.7	38.5
平均 (合計)	28.1	26.0	32.1	31.2	24.2	22.1	3.7	34.3	53.2	25.6	
8 月	1	28.3	28.4	32.4	34.3	24.4	23.8	1.0	14.4	43.7	38.4
	2	26.7	28.3	30.6	34.4	23.2	23.9	122.5	23.8	24.5	33.5
	3	26.9	27.6	30.2	33.5	24.3	23.4	34.5	29.6	33.1	29.7
	4	27.9	27.1	32.5	33.1	24.6	22.9	1.0	22.7	54.7	31.6
	5	28.4	26.7	32.8	32.6	24.9	22.4	0	24.0	44.2	28.6
	6	27.7	26.0	32.4	31.8	24.5	21.5	33.0	28.7	53.1	33.9
平均 (合計)	27.7	27.4	31.8	33.3	24.3	23.0	32.0	23.9	42.2	32.6	
9 月	1	27.2	25.0	32.6	30.4	23.7	21.1	39.5	47.3	29.8	24.6
	2	26.2	24.0	30.3	29.4	23.5	20.1	40.0	46.5	23.7	22.4
	3	26.3	23.6	29.7	29.1	23.5	19.5	42.0	28.5	18.9	23.1
	4	24.9	22.8	29.2	28.1	21.5	18.6	36.0	38.6	15.9	23.5
	5	23.1	21.4	28.0	26.8	19.7	17.4	21.5	32.9	8.5	21.4
	6	22.0	20.7	26.7	26.2	18.3	16.4	43.0	39.0	15.4	22.6
平均 (合計)	25.0	22.9	29.4	28.3	21.7	18.8	37.0	38.8	18.7	22.9	
10 月	1	21.2	20.0	26.0	25.5	17.9	15.6	38.0	25.2	21.6	22.7
	2	21.7	19.0	25.4	24.6	18.2	14.6	10.0	21.7	31.2	24.1
	3	21.9	18.2	26.7	24.0	18.6	13.7	38.5	19.6	14.8	24.2
	4	20.0	16.8	24.2	22.6	16.7	12.0	60.0	28.6	13.6	25.8
	5	15.3	16.2	19.5	21.7	11.9	11.7	3.5	34.6	16.4	22.7
	6	13.6	14.9	18.7	20.7	9.9	10.3	32.0	16.5	28.4	28.6
平均 (合計)	19.0	17.5	23.4	23.2	15.5	13.0	30.3	24.4	21.0	24.7	
11 月	1	13.1	14.0	18.5	20.0	9.3	9.4	14.0	26.9	25.9	23.2
	2	14.0	14.0	18.5	19.4	10.1	9.5	14.5	17.8	16.8	22.2
	3	12.8	12.8	18.3	17.9	9.4	8.7	0	29.4	26.7	18.1
	4	10.6	11.1	16.4	15.9	6.8	7.3	37.5	24.4	25.4	16.6
	5	11.9	10.4	17.8	15.7	8.1	6.3	3.5	20.9	28.2	17.3
	6	11.4	10.2	16.3	15.0	6.9	6.3	8.5	21.3	22.1	13.9
平均 (合計)	12.3	12.1	17.6	17.3	8.4	7.9	13.0	23.5	24.2	18.5	
12 月	1	8.2	8.6	12.4	13.6	4.9	4.7	21.5	26.2	8.3	14.9
	2	8.9	7.5	14.0	12.3	5.0	3.9	3.5	25.6	28.4	15.0
	3	7.5	7.1	11.2	11.5	4.1	3.6	52.5	33.1	13.7	12.3
	4	9.7	6.1	14.3	10.4	5.2	2.5	12.0	24.5	23.7	13.1
	5	9.6	6.4	13.1	10.9	5.0	2.7	48.5	26.4	5.9	13.0
	6	5.0	5.3	8.8	9.7	2.2	1.7	55.0	31.1	11.4	13.9
平均 (合計)	8.2	6.8	12.3	11.4	4.4	3.2	32.2	27.8	15.2	13.7	

観測地点：弓浜砂丘地分場（境港市中海干拓地 27）

数値は全て境測候所アメダス値
（平年値は1991年～2020年の平均）

項目 旬 月		気 温 (°C)						降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平 均		最 高		最 低					
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1 月	上	5.3	5.5	8.8	9.0	1.9	2.2	45.0	58.6	26.0	20.5
	中	4.7	4.9	9.2	8.3	1.1	1.8	40.5	64.8	34.3	19.5
	下	5.9	4.4	9.7	7.9	2.7	1.3	16.5	66.6	39.8	23.0
平均(合計)		5.3	4.9	9.2	8.4	1.9	1.8	34.0	63.3	33.4	21.0
2 月	上	2.7	4.6	5.5	8.3	-0.1	1.2	37.0	51.4	16.6	25.0
	中	4.2	5.2	8.5	9.2	0.0	1.6	39.5	49.5	31.7	28.7
	下	4.9	6.2	9.4	10.3	0.5	2.3	41.0	39.4	34.2	30.9
平均(合計)		3.9	5.3	7.8	9.3	0.1	1.7	39.2	46.8	27.5	28.2
3 月	上	7.1	7.1	10.8	11.4	3.8	3.0	92.5	44.8	37.9	38.1
	中	7.5	8.2	11.8	12.9	3.2	3.7	54.5	47.4	40.3	45.9
	下	13.3	9.6	18.7	14.4	7.9	5.1	26.5	48.1	80.6	55.3
平均(合計)		9.3	8.3	13.8	12.9	5.0	3.9	57.8	46.8	52.9	46.4
4 月	上	11.2	11.4	16.7	16.4	6.0	6.7	35.5	39.8	64.7	56.0
	中	15.0	13.3	19.9	18.4	10.0	8.5	26.0	34.9	64.0	60.7
	下	15.3	15.1	20.5	20.3	10.0	10.3	18.0	35.0	78.2	65.8
平均(合計)		13.8	13.3	19.0	18.4	8.7	8.5	26.5	36.6	69.0	60.8
5 月	上	16.4	16.9	21.9	22.1	11.5	12.1	49.5	41.1	79.0	67.3
	中	19.8	17.9	25.0	23.0	15.1	13.3	14.0	42.4	71.8	68.1
	下	17.7	19.3	21.8	24.3	14.5	14.9	66.0	36.3	60.4	75.4
平均(合計)		18.0	18.0	22.9	23.1	13.7	13.4	43.2	39.9	70.4	70.3
6 月	上	21.4	20.5	26.1	25.0	17.4	16.7	22.0	33.8	62.0	62.2
	中	24.6	21.7	30.0	25.9	20.6	18.4	31.5	53.5	65.6	54.3
	下	25.9	23.1	30.8	27.0	22.3	20.1	86.5	87.1	67.5	44.3
平均(合計)		24.0	21.8	29.0	26.0	20.1	18.4	46.7	58.1	65.0	53.6

項目 旬		気 温 (°C)						降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平 均		最 高		最 低					
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7 月	上	28.9	24.6	33.4	28.4	25.9	21.7	0	89.1	103.0	44.2
	中	28.4	25.8	33.5	29.9	24.9	22.9	32.0	80.1	68.0	54.4
	下	30.1	27.2	35.1	31.4	26.0	24.1	0	47.7	137.3	76.5
平均(合計)		29.1	25.9	34.0	29.9	25.6	22.9	10.7	72.3	102.8	58.4
8 月	上	28.7	27.9	32.9	32.2	25.6	24.7	184.5	33.0	70.2	72.9
	中	28.3	27.4	32.6	31.6	25.1	24.3	58.0	42.1	89.2	66.6
	下	29.5	26.4	34.2	30.5	26.1	23.3	20.0	61.0	107.6	66.2
平均(合計)		28.8	27.2	33.2	31.4	25.6	24.1	87.5	45.4	89.0	68.6
9 月	上	28.2	24.9	32.5	28.8	25.1	21.8	89.5	74.6	66.6	51.5
	中	26.8	23.3	30.2	27.1	24.1	20.1	154.5	71.1	41.7	50.0
	下	24.1	21.5	27.9	25.3	20.8	18.0	23.0	63.0	32.3	48.6
平均(合計)		26.4	23.2	30.2	27.1	23.3	20.0	89.0	69.6	46.9	50.0
10 月	上	22.7	19.8	26.3	23.8	20.1	16.1	53.0	45.5	48.6	48.8
	中	21.8	17.9	25.7	22.2	19.3	13.9	81.5	44.7	39.8	52.4
	下	15.8	15.9	19.2	20.3	12.7	11.8	36.0	53.7	45.7	52.9
平均(合計)		20.1	17.9	23.7	22.1	17.4	13.9	56.8	48.0	44.7	51.4
11 月	上	14.5	14.2	18.6	18.7	10.2	10.1	37.0	42.9	54.1	43.8
	中	12.2	12.3	17.5	16.6	8.3	8.4	34.0	48.8	45.0	35.5
	下	11.7	10.5	17.1	14.6	7.2	6.7	26.0	51.4	55.3	30.0
平均(合計)		12.8	12.3	17.7	16.6	8.6	8.4	32.3	47.7	51.5	36.4
12 月	上	8.9	8.7	13.5	12.6	4.8	5.1	10.5	65.1	19.8	25.6
	中	8.8	7.2	13.2	10.9	4.5	3.9	60.0	60.6	37.4	23.7
	下	7.5	6.3	10.9	9.9	4.1	2.9	90.5	64.3	15.4	25.3
平均(合計)		8.4	7.4	12.5	11.1	4.5	4.0	53.7	63.3	24.2	24.9

観測地点：日南試験地（日野郡日南町阿毘縁 1203-1）

（平年値：平成3年～令和1年の30年間、茶屋アメダス）

（※本年の気温は日南試験地で測定、他は茶屋アメダス）

項目		気 温 (°C)						降 水 量		日 照 時 間	
		平 均		最 高		最 低		(mm)		(hrs)	
月	半旬	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
1 月	1	0.6	0.5	5.4	4.6	-3.1	-3.8	1.0	21.8	23.5	11.4
	2	-1.4	0.2	1.3	4.2	-4.1	-4.1	64.0	22.5	1.6	11.0
	3	-1.3	-0.1	2.3	3.9	-5.0	-4.4	20.0	22.5	11.9	11.1
	4	-0.3	-0.4	5.1	3.6	-4.7	-4.7	2.5	22.5	20.7	10.7
	5	0.8	-0.8	7.2	3.3	-3.5	-5.0	5.0	21.9	24.7	10.5
	6	-0.9	-0.9	2.0	3.1	-2.9	-5.3	20.5	25.5	8.5	13.8
平均(合計)		-0.4	-0.3	3.9	3.8	-3.9	-4.5	113.0	136.7	90.9	68.5
2 月	1	-2.0	-0.8	1.0	3.4	-4.4	-5.4	38.0	20.7	1.2	13.0
	2	-4.4	-0.3	-1.4	4.1	-7.7	-5.2	66.5	20.5	1.4	14.0
	3	-0.7	0.1	6.0	4.7	-8.2	-5.0	8.0	21.5	17.5	14.6
	4	-1.2	0.3	2.0	5.0	-4.2	-4.7	21.5	23.4	8.0	15.3
	5	-3.2	0.5	0.7	5.3	-8.4	-4.4	26.0	24.5	14.3	16.1
	6	2.7	1.0	8.3	5.8	-2.8	-4.1	0.0	19.6	12.7	13.4
平均(合計)		-1.5	0.1	2.8	4.7	-5.9	-4.8	160.0	130.2	55.1	86.4
3 月	1	2.6	1.3	7.0	6.4	-0.6	-3.7	37.5	24.2	9.2	17.6
	2	0.1	2.1	5.4	7.4	-4.7	-3.2	18.0	24.0	19.6	19.0
	3	3.5	3.0	9.9	8.6	-2.3	-2.5	13.0	24.0	17.6	19.8
	4	-0.1	4.0	3.9	9.7	-4.1	-1.7	41.5	23.9	13.1	20.0
	5	11.5	4.7	18.6	10.6	4.7	-1.0	3.0	22.4	51.2	20.0
	6	7.0	5.5	11.8	11.6	1.4	-0.4	25.0	24.7	31.2	25.0
平均(合計)		4.1	3.4	9.4	9.0	-0.9	-2.1	138.0	143.2	141.9	121.4
4 月	1	4.7	6.8	10.9	13.1	-0.9	0.4	6.5	19.6	25.1	23.5
	2	9.8	8.0	17.0	14.5	1.6	1.4	5.0	20.3	42.0	25.2
	3	8.6	9.1	13.0	15.6	2.1	2.3	42.5	21.3	21.6	25.9
	4	15.5	10.1	22.5	16.6	8.7	3.2	3.0	20.8	37.1	26.3
	5	12.9	11.1	18.5	17.8	6.5	4.1	9.5	18.9	17.8	27.0
	6	10.8	12.2	19.0	19.0	1.3	5.2	1.0	18.0	45.5	28.4
平均(合計)		10.4	9.6	16.8	16.1	3.2	2.8	67.5	118.9	189.1	156.3
5 月	1	12.0	13.3	18.9	20.1	3.6	6.5	17.5	19.2	44.2	28.7
	2	12.8	14.0	17.9	20.6	7.0	7.4	26.5	21.8	28.5	27.4
	3	14.7	14.2	21.9	20.6	7.5	7.8	0.0	24.4	40.3	26.5
	4	19.1	14.6	25.5	20.9	13.7	8.3	10.5	23.9	31.5	27.3
	5	15.7	15.2	19.5	21.5	12.3	9.0	49.5	21.5	12.9	28.7
	6	13.4	16.0	19.7	22.2	7.1	9.9	0.0	24.2	39.6	34.8
平均(合計)		14.6	14.5	20.6	21.0	8.5	8.2	104.0	135.0	197.0	173.4
6 月	1	16.4	16.8	22.5	23.0	10.5	10.8	24.5	19.3	41.9	28.8
	2	18.7	17.5	24.2	23.6	13.2	11.8	6.0	19.3	16.3	27.6
	3	20.5	18.2	25.7	23.9	16.3	12.9	14.0	23.2	20.5	25.5
	4	22.8	19.0	30.3	24.3	15.9	14.3	4.5	35.1	43.1	21.5
	5	23.1	19.7	26.0	24.5	20.5	15.5	64.0	50.1	3.5	17.2
	6	23.1	20.4	29.4	24.9	16.4	16.4	21.5	56.4	62.7	19.3
平均(合計)		20.8	18.6	26.4	24.0	15.5	13.6	134.5	203.4	188.0	139.9

項目		氣 温 (°C)						降 水 量		日 照 時 間	
		平 均		最 高		最 低		(mm)		(hrs)	
		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年
月	半 旬										
7 月	1	25.7	21.1	31.9	25.7	20.1	17.1	0.0	50.7	54.0	17.4
	2	24.8	21.8	31.0	26.4	19.8	17.8	11.0	47.4	43.6	18.5
	3	23.4	22.3	27.4	26.9	19.6	18.3	38.5	52.3	26.9	18.8
	4	24.9	22.7	28.9	27.6	20.9	18.6	0.5	49.6	34.7	21.8
	5	25.4	23.2	31.9	28.3	19.0	18.9	0.0	36.1	55.6	25.8
	6	25.7	23.5	32.0	28.8	19.7	19.2	0.0	28.9	72.3	33.2
平均(合計)		25.0	22.4	30.5	27.3	19.9	18.3	50.0	265.0	287.1	135.5
8 月	1	24.8	23.6	30.9	29.0	18.5	19.2	12.0	21.7	43.5	28.0
	2	23.8	23.5	27.8	29.0	20.3	19.2	160.5	25.3	14.8	27.1
	3	24.2	23.4	28.4	28.7	20.8	19.2	39.0	27.3	20.9	25.5
	4	24.6	23.1	31.5	28.4	19.0	18.8	8.0	26.8	45.9	24.5
	5	25.0	22.6	31.0	28.0	20.2	18.2	7.0	25.3	35.0	24.5
	6	24.7	22.1	30.3	27.4	20.3	17.5	6.0	29.0	44.6	29.2
平均(合計)		24.5	23.0	30.0	28.4	19.8	18.7	232.5	155.4	204.7	158.8
9 月	1	24.3	21.2	29.2	26.6	20.5	16.7	35.5	28.9	29.6	22.5
	2	23.0	20.2	27.6	25.5	19.1	15.8	38.5	35.1	22.5	19.6
	3	23.6	19.3	26.9	24.5	21.2	14.9	112.0	37.0	13.7	18.1
	4	21.9	18.3	26.2	23.5	17.9	13.7	42.5	37.1	13.4	18.3
	5	19.3	17.2	23.1	22.5	15.7	12.5	15.5	37.1	12.2	19.0
	6	18.6	16.1	22.6	21.5	14.4	11.2	33.5	33.9	8.0	19.0
平均(合計)		21.8	18.7	25.9	24.0	18.1	14.1	277.5	209.1	99.4	116.5
10 月	1	17.5	15.1	21.9	20.7	13.6	10.1	48.0	28.5	16.5	19.2
	2	18.1	14.2	22.8	20.0	14.1	8.8	4.0	25.1	29.9	20.7
	3	19.1	13.1	24.1	19.3	15.0	7.5	19.5	23.8	16.1	22.7
	4	16.7	11.8	20.6	18.2	13.5	6.0	33.0	22.4	11.9	23.5
	5	10.1	10.7	15.2	17.1	5.4	4.8	4.5	20.3	17.3	22.8
	6	9.0	9.9	14.2	16.3	4.4	4.0	29.5	22.9	27.9	25.7
平均(合計)		15.1	12.5	19.8	18.6	11.0	6.9	138.5	143.0	119.6	134.6
11 月	1	7.8	9.2	13.5	15.6	2.8	3.4	18.5	19.0	21.9	21.3
	2	9.1	8.6	14.7	14.7	3.6	2.9	22.0	20.1	16.4	20.0
	3	7.4	7.6	14.7	13.3	2.0	2.2	0.0	20.8	25.1	17.5
	4	5.6	6.4	11.8	12.1	0.4	1.0	9.0	19.1	21.8	16.2
	5	5.7	5.5	13.7	11.2	-0.2	0.2	11.0	18.8	23.8	15.5
	6	5.3	4.7	11.5	10.2	-1.1	-0.3	11.0	20.8	25.0	14.3
平均(合計)		6.8	7.0	13.3	12.9	1.3	1.6	71.5	118.6	134.0	104.8
12 月	1	2.8	3.8	7.4	9.2	-1.4	-1.0	16.5	21.9	7.1	14.0
	2	2.4	3.1	9.6	8.2	-3.1	-1.5	0.0	22.0	28.0	13.7
	3	2.9	2.4	7.4	7.2	-1.3	-1.9	32.5	22.0	17.1	12.8
	4	4.9	1.8	10.8	6.4	-1.3	-2.4	13.0	21.4	17.7	12.5
	5	5.2	1.4	10.0	6.0	-0.6	-2.9	35.0	21.0	6.4	12.5
	6	0.0	1.0	3.0	5.4	-2.6	-3.4	16.0	25.3	5.2	14.7
平均(合計)		3.0	2.3	8.0	7.1	-1.7	-2.2	113.0	133.6	81.5	80.2